

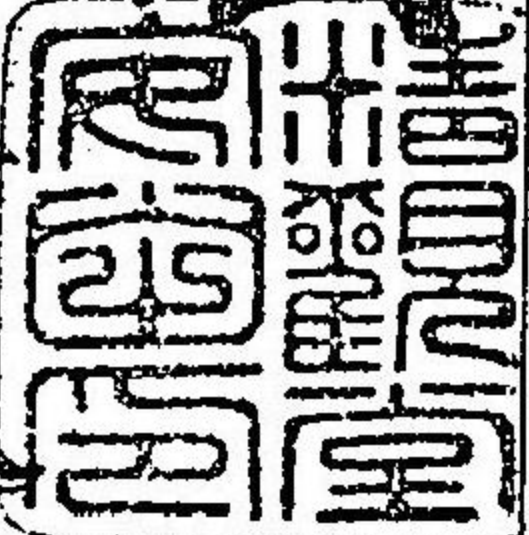
特 16
434

大室傳著述

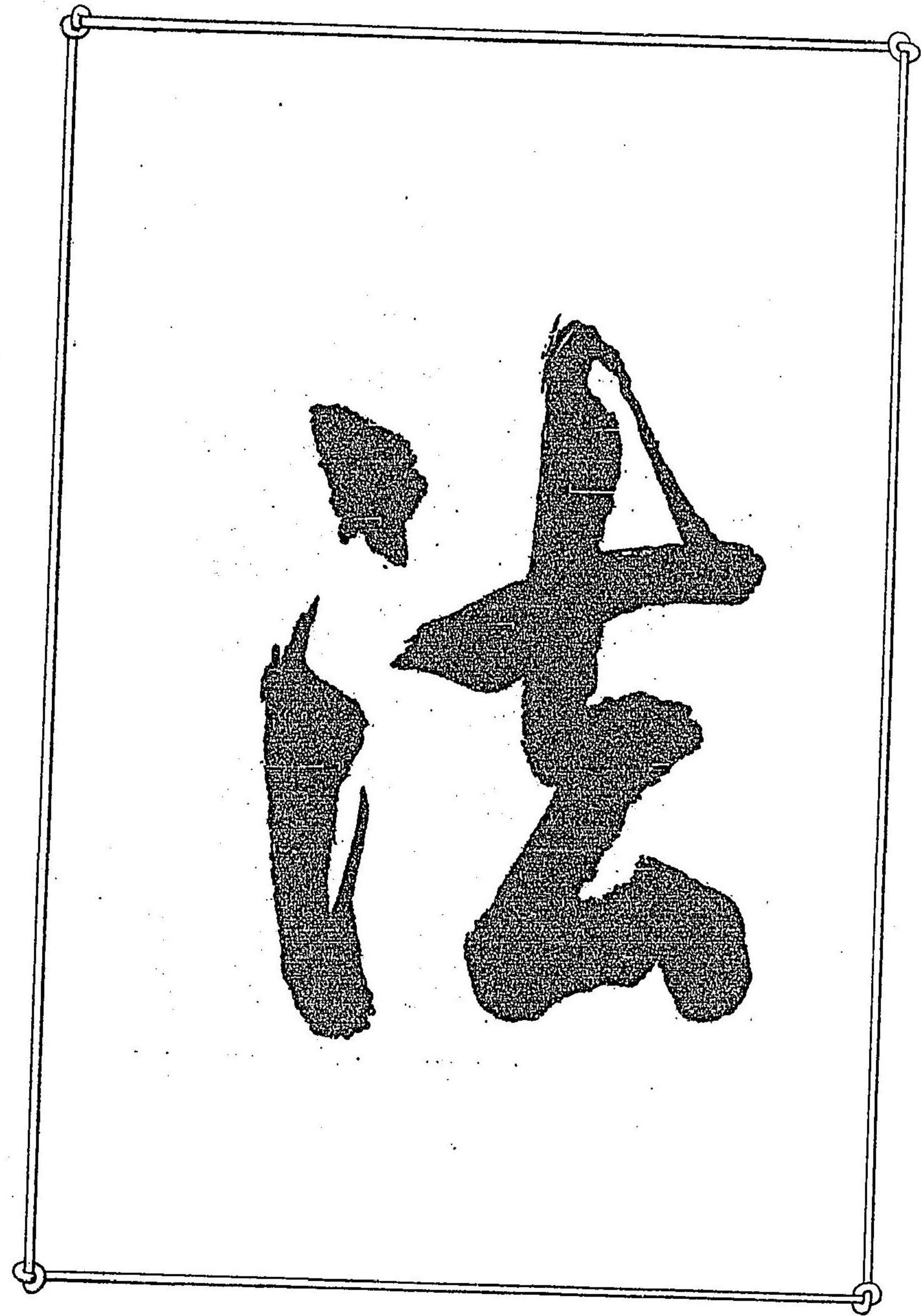
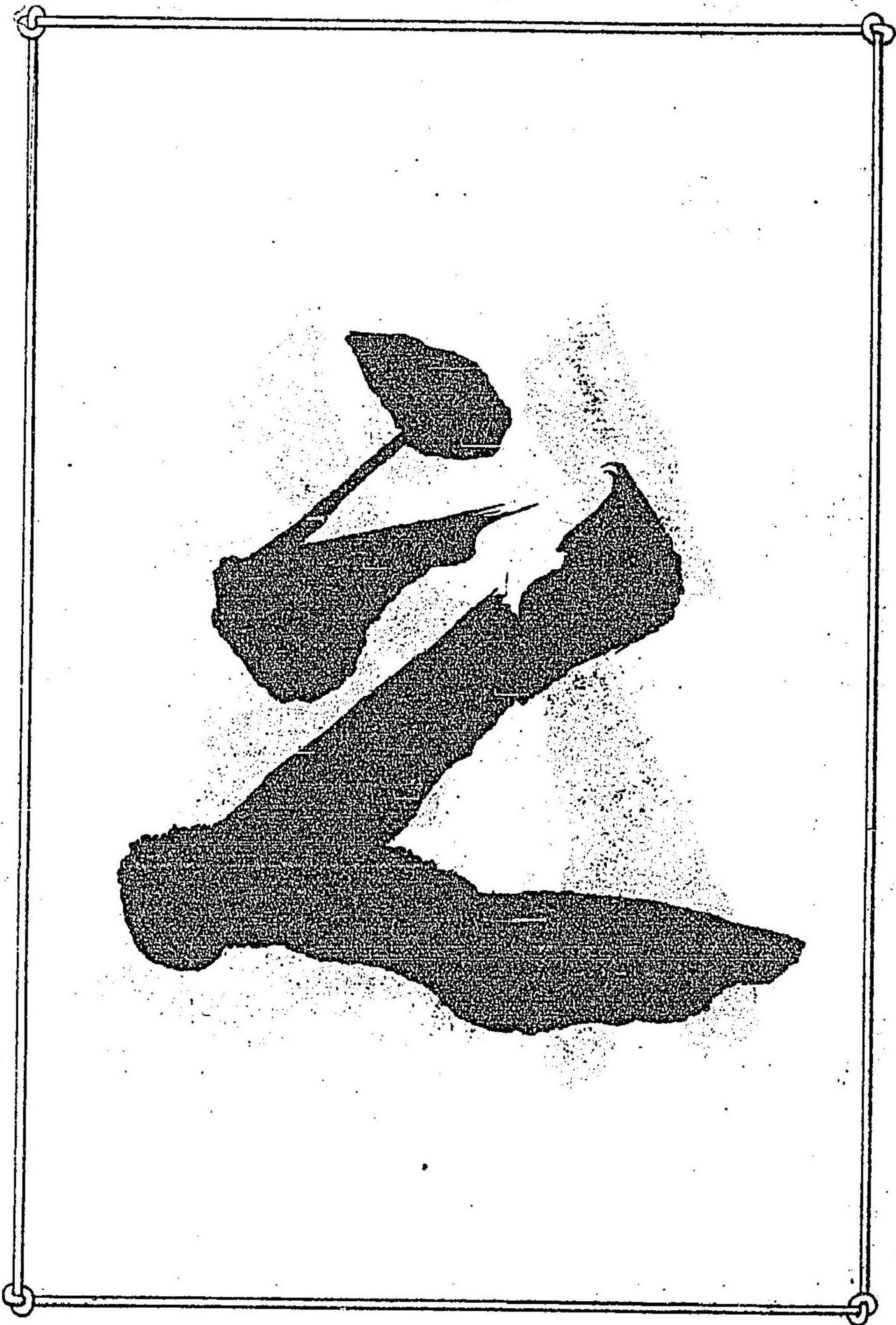
刑法實用上

東京

精觀堂藏



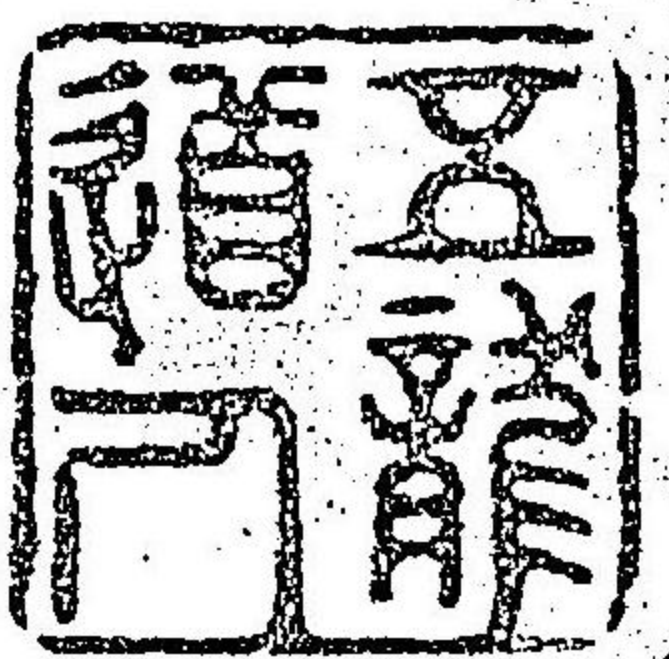
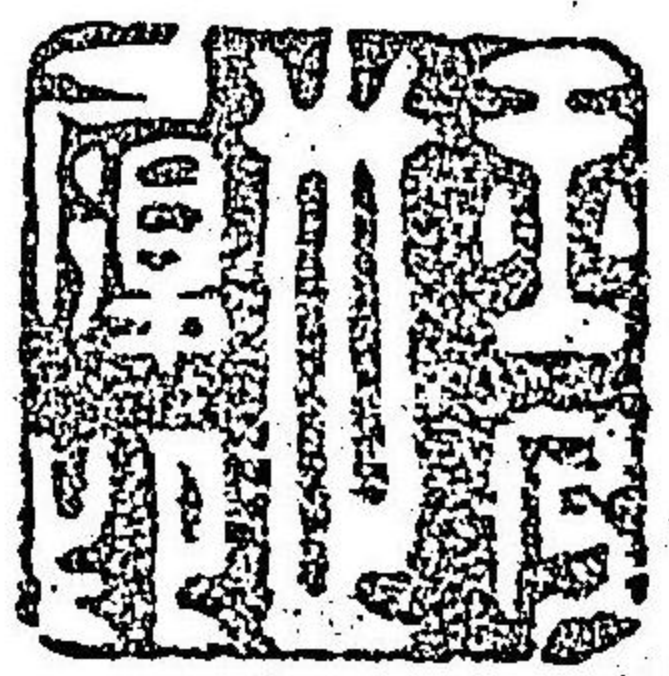




道

明治十年七月

王君世復題

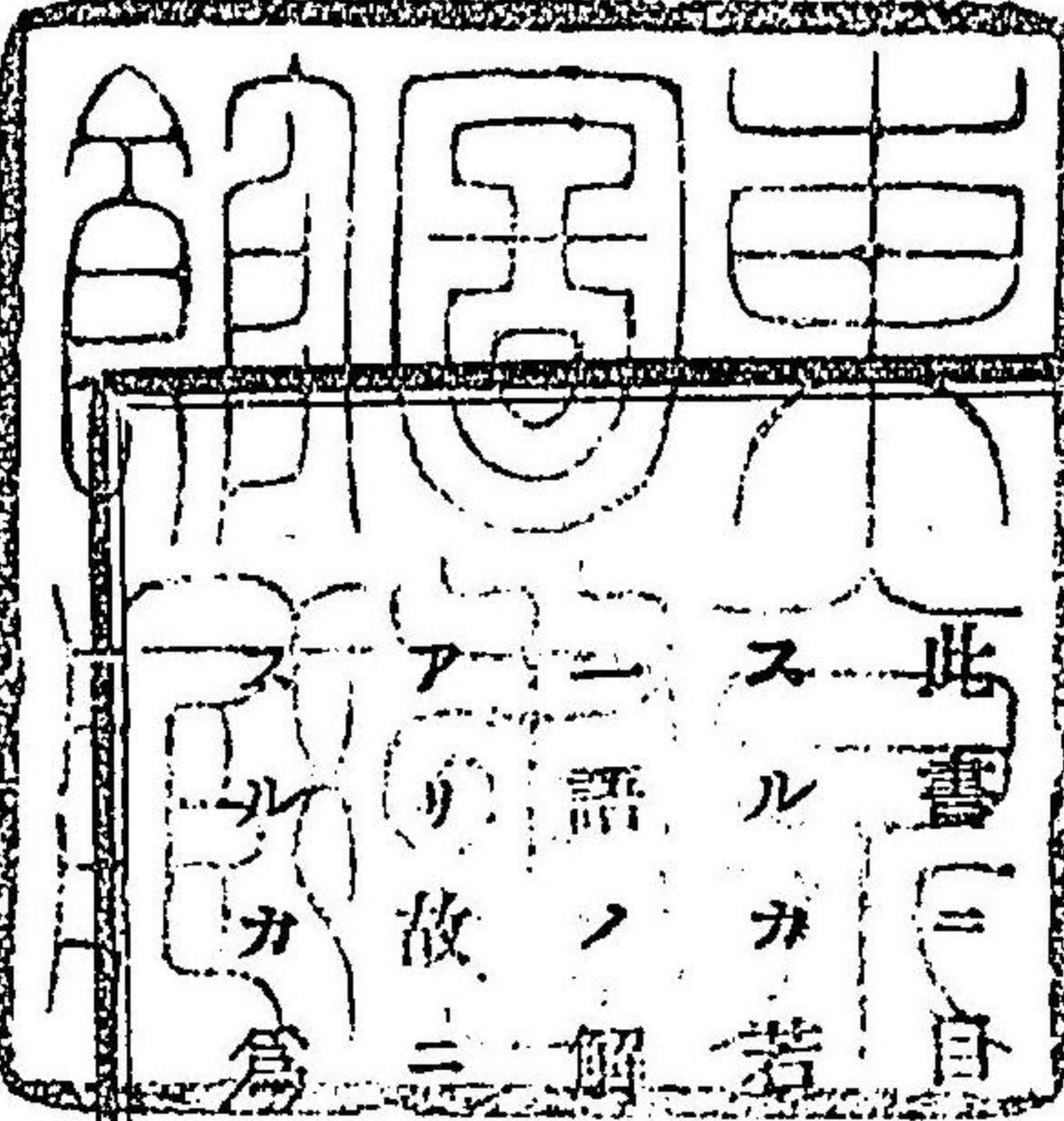


刑法實用

例言

一是書ハ刑法ヲ實際ニ運用スル者ノ便ニ供スルヲ以テ目的ト爲ス故ニ奇論ニ流レズ僻說ニ陷ラス專ラ正經着實ヲ旨トシ以テ法理ノ存スル所ト法意ノ在ル所ヲ明ニスルヲ主トス

一 議論高遠ニ驚セ徒ラニ世人ノ耳目ヲ聳動スルカ若キハ此書ニ目的トスル所ニ非ス又單ニ文辭ヲ釋シ意義ヲ解スルカ若キモ亦此書ノ目的トスル所ニ非ス然レモ一辭一語ノ解釋ニ因リ適用上ノ差異ヲ生スルヲ至大ナル者アリ故ニ法理ノ存スル所ヲ闡述シ精神ノ在ル所ヲ啓發スルカ爲メニハ問々又詳說備論スルヲアリトス



一書中刑法第何條治罪法第何條ト記シ或ハ何年何月何日ノ布告布達若クハ某省ノ達ト記スル者ハ讀者ノ參看ニ便スルモノトス而シテ單ニ第何條ト記スル者ハ總テ此書ノ箇條ヲ謂フ

一書中ニ引用スル法律規則等ノ辭句或ハ讀者ノ爲メ特ニ注意ヲ要スルモノハ右傍ニ圈點ヲ加ヘ其他緊切ナル處ハ此點ヲ加ヘ以テ閱覽ニ便ス

刑法實用卷之上目次

第一編 總則

第一章 法例

第一節 犯罪ノ種別

壹

第二節 法ノ効力

十七

第二章 刑例

第一節 刑名

廿六

第二節 重罪主刑ノ處分

廿八

第三節 輕罪主刑ノ處分

四十二

第四節 違警罪主刑ノ處分

四十九

第五節 重罪附加刑ノ處分

五十二

第六節 輕罪附加刑ノ處分

六十四

第七節	違警罪附加刑ノ處分	六十七
第八節	徵償處分	六十八
第九節	刑期計算	七十六
第十節	假出獄	八十
第十一節	期滿免除	八十七
第十二節	復權	九十三
第三章	加減例	
第一節	重罪刑ノ加減	九十五
第二節	輕罪刑ノ加減	九十七
第四章	不論罪及ヒ減輕	
第一節	一般ノ不論罪	百
第二節	一般ノ宥恕減輕	百二十

第三節	特別ノ不論罪	百二十二
第四節	特別ノ宥恕減輕	百二十三
第五節	自首減輕	同
第六節	酌量減輕	百廿七
第五章	再犯加重	百二十八
第六章	加減順序	百三十三
第七章	數罪俱發	百三十六
第八章	數人共犯	
第一節	正犯	百四十
第二節	從犯	百四十三
第九章	未遂犯罪	百四十五
第十章	親屬例	百四十九

刑法實用卷之上目次畢

刑法實用卷之上

大室傳著

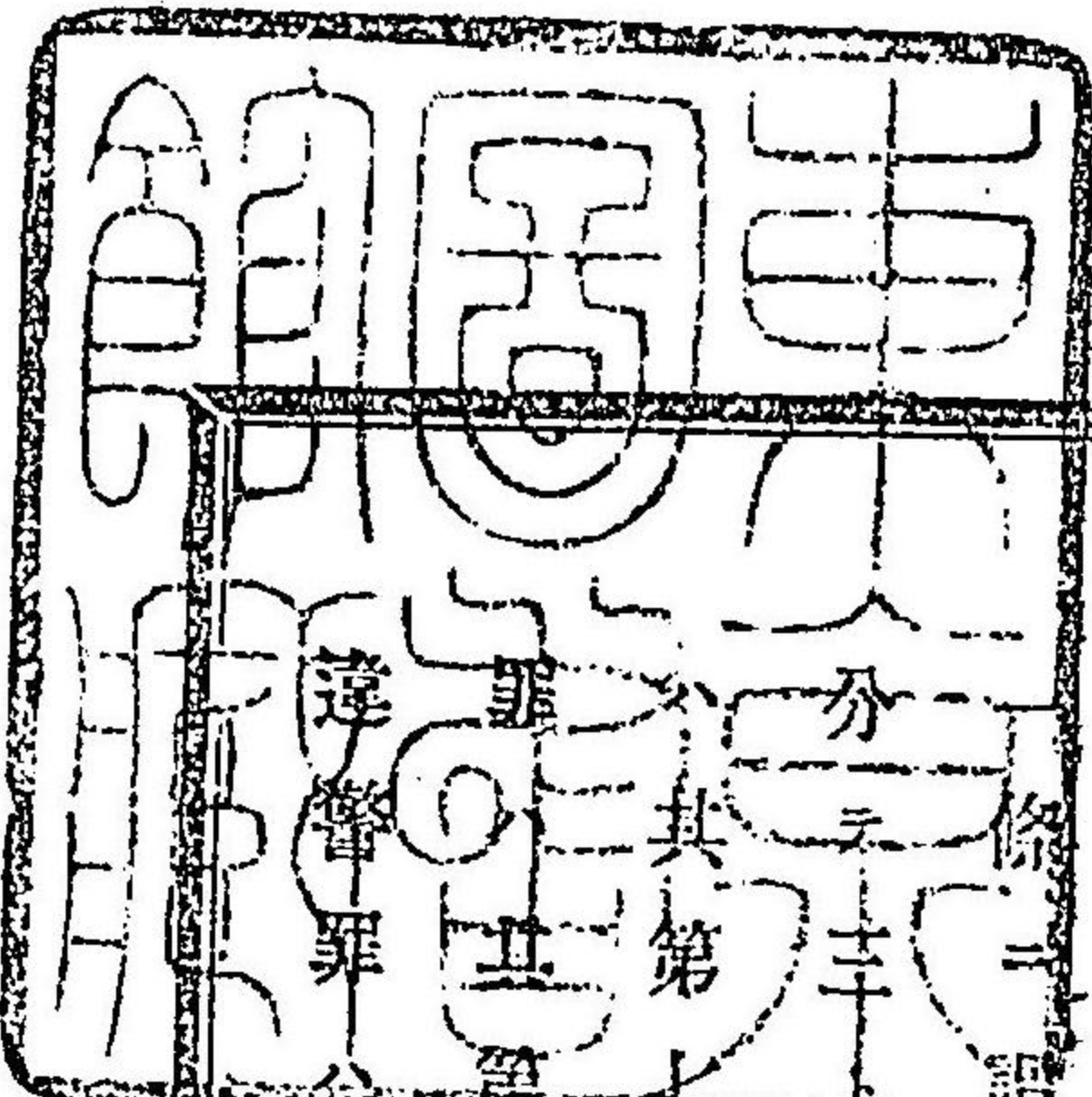
第一編

第一章 法例

第一節 犯罪ノ種別

第一條 刑法上ノ罪

刑法第二條ニ掲記スル法律ニ正條アル所爲ハ即チ其第
 一節ノ所ノ法律ニ於テ罰ス可キ罪ナリ而シテ之ヲ
 爲ス曰ク重罪曰ク輕罪曰ク違警罪是ナリ重罪
 條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ謂ヒ輕
 罪ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ謂ヒ
 違警罪ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ
 其第一條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ



二
謂フ此三種ノ犯罪ハ刑法ノ全部ヲ占領スルノミナラス
他ノ法律規則ニ於テ罰ス可キ所爲ト定メタル者モ亦必
ズ此種類中ニ入ル者トス故ニ之ヲ概言スレハ法律規則
ニ於テ罰ス可キ所爲ハ即チ是レ罪ナリ而シテ其罪ハ必
ズ三種中ニ在ル者トス重罪ニ非サレハ則チ輕罪或ハ違
警罪ナリ輕罪ニ非サレハ重罪若シハ違警罪ナリ違警罪
ニ非サレハ輕罪又ハ重罪ナリ

第二條

刑法及ヒ特別ノ法律規則ニ掲クル犯罪ハ前條ニ於テ區
別セシ如ク必ズ三種ニ限ルト雖モ此三種ヲ區別スルノ
外實際尙ホ許多ノ必要ナル區別アリ乃ハチ左ノ各條ニ
於テ逐次記載ス

第三條

罪ノ輕重ニ因テ之ヲ三種ニ別チタルハ蓋シ實際ノ便チ
圖リシナリ重罪ハ重罪裁判所ニ於テ裁判シ刑法第七條
ニ記載シタル刑ヲ以テ罰シ輕罪ハ輕罪裁判所ニ於テ裁
判シ刑法第八條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰シ違警罪ハ違
警罪裁判所ニ於テ裁判シ刑法第十條ニ記載シタル刑ヲ
以テ罰スルカ如シ此外尙ホ種々ノ點ニ於テ區別ノ利益
アリトス

第四條 有意犯、無意犯

凡ソ人ノ行爲ハ其惡意アリテ之ヲナシ且公衆ノ危懼心
ヲ起スニ非サレハ之ヲ罰スルハ理ナシ今此ニ謂フ所ノ
有意犯ハ其罪ヲ成立スルノ元素トシテ故意アルヲ要ス

ル者ニシテ無意犯ハ未タ嘗テ一點罪ヲ犯スノ意念ナキ
モ唯其所爲ノ形迹ノミアレハ乃チ罰スル者ナリ刑法ニ
記載スル重罪ト輕罪トハ大抵故意アルヲ要スト雖モ
其第七十七條第一項ニ於テハ又其例外アルヲ明示セ
リ故ニ其第三百十七條ノ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守
セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者第三百十八條ノ過
失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シタル者及ヒ第三百十
九條ノ過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル
者ノ如キハ元來故意ナキノ所爲ナリト雖モ尙ホ例外ト
シテ罰アリトス又刑法第四百二十五條ヨリ第四百二十
九條マテニ記載シタル違警罪及ヒ刑法第四百三十九條
ニ云フ各地方ノ便宜ニ因リテ定ムル所ノ違警罪ハ概ム

子無意犯ナリトス蓋シ重罪輕罪ハ無意犯ヲ例外トナシ
有意犯ヲ一般トス違警罪ハ之レニ反シ有意犯ヲ例外ト
ナシ無意犯ヲ一般トスル者ナリ

第五條 爲犯不爲犯

凡ソ刑法ハ其事爲ヲ禁止スルニ非サレハ則チ命令スル
ナリ其禁止スル所ノ事ヲ爲セハ即チ是レ爲犯ナリ何ト
ナレハ爲スヘカラサル事ヲ爲スニ因リ犯罪ヲ成立スレ
ハナリ又其命令スル所ノ事ヲ爲サレハ即チ是レ不爲
犯ナリ何トナレハ爲サ、ル可カラサル事ヲ爲サ、ルニ
因リ犯罪ヲ成立スレハナリ而シテ之ヲ概論スレハ刑法
及ヒ諸罰則ハ禁止ヲ以テ主眼トス故ニ犯罪タル可キ事
爲ニシテ十中八九ハ爲犯ナリ不爲犯ニ至テハ其數僅少

ニシテ刑法中載スル所ハ第一百七十七條第一百七十九條第
百八十條第百八十一條第二百四十七條第二百七十三條
ノ官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セサル者第二
百七十四條第二百七十七條第二百八十一條第二百八十
三條第三百四十條第四百二十五條第一項第二項第五項
第六項第八項第四百二十六條第二項第五項第四百二十
七條第六項第四百二十九條第六項第十一項等ニ止マリ
其他特別法ノ規定スル所モ亦甚々多カラス

第六條 國事犯常事犯

國事犯ハ刑法第二編第二章第一節第二節ニ記載シタル
罪ニシテ之ヲ要スルニ國家ノ制度憲法ヲ害スル者トス
故ニ之ヲ罰スル時ハ政治上最モ裨益アリ何トレハ其目

的タル元ト國体政体ヲ戕害スルニ在ルヲ以テナリ常事
犯ハ刑法ノ問フ所ト特別法ノ論スル所トニ關セス國事
犯以外ノ者ヲ總括シテ之ヲ謂フ而シテ國事犯罪ノ常事
犯罪ニ異ナル所ハ其犯人ノ身分如何ニ關セス高等法院
ニ於テ之ヲ裁判シ（治罪法第八十條）且刑法第六十八條ニ列
記スル刑ヲ以テシ其輕罪ニ該ル者ハ必ス輕禁錮ノ刑ヲ
以テ之ヲ罰スルニ在リ蓋シ國事犯罪ニシテ常事犯罪タ
ルカ如キ者アリ又常事犯罪ニシテ國事犯罪タルカ如キ
者アリテ其性質甚ク識別シ難キトアリ故ニ第二編ノ國
事犯罪ヲ記スル時ニ當テ特ニ之ヲ詳說スルヲアラント
ス

第七條 軍事犯非軍事犯

軍事犯トハ軍事ニ關スル罪ニシテ其軍人軍屬タルト常
人タルトヲ問ハス陸海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ヲ謂フ
而シテ軍人軍屬ノ犯罪ハ其性質依令常事犯タルモ身
ノ軍人軍屬タルノ故ヲ以テ陸海軍裁判所ノ審判ヲ受ク
可ク且其犯罪モ亦之ヲ軍事犯ト謂ハサル可カラズ常人
ハ陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ於テ特ニ明文アル時ノ外軍
事犯トシテ罰セラレサル者トス陸軍刑法第十二條ニ曰
第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條
第八十九條第九十條第一項第九十五條第一百十一條第百
十二條第百十三條第百十四條第百十五條第百十六條ニ
掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依
テ處斷ス第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百

十九條第百廿條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖
モ亦軍人ト同ク論ス又同法第十三條ニ曰ク敵前軍中若
クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五
六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十
一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑
法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六
十二條第六十三條ニ照シテ處斷スト海軍刑法第三條及
ヒ第四條モ亦軍人ニ非サル者ト雖モ海軍刑法ニ依テ處
斷スル旨ヲ規定セリ常人ニシテ軍事犯トナル可キハ此
二法典ノ記スル所ニ止マルモノナリ常事犯ハ普通刑法
ヲ以テ論スル一切ノ犯罪皆是ナリ蓋シ軍人軍屬ト雖モ
陸海軍刑法ニ關係ナキ罪ヲ犯セハ通常裁判所ノ裁判ヲ

受ク可キハ勿論ナリトス

第八條 即時犯連續犯繼續犯

即時犯ハ害ノ永續シ或ハ其成迹ノ存在スル如何ニ關セ
ス犯事ノ即時ニ終リ永ク存續セサル者ヲ謂フ殺傷放火
毆打創傷及ヒ強盜罪ノ如キ皆是レナリ蓋シ重婚ノ罪
囚徒逃走ノ罪ノ如キ其形迹ヲ見レハ殆ント連續犯ニ似
タル者アリト雖モ其以テ重婚ト爲ス所ハ男女居室ヲ同
フスルニ非スシテ婚姻ヲ爲スニ在リ囚徒逃走ノ罪ハ其
逃レテ外ニ在ルニ非スシテ逃走ヲ爲スニ在リ男女共居
ヲ爲シ逃走シテ外ニ在ルハ犯罪ニ非ラスシテ唯其果效
タルノミ連續犯ハ犯事ハ斷續スル者ヲ謂フ同種ノ犯罪
相集マル者トス例ヘハ偽造變造ノ貨幣ヲ行使シ(刑法第
百九第十

條

又ハ偽造變造ノ度量衡ヲ使用スル(刑法第二百二
十條第二項)カ如

シ今日偽造變造ノ貨幣ヲ行使スレハ今日一箇ノ罪ヲ犯
スナリ明日又之ヲ行使スレハ明日亦一箇ノ罪ヲ犯スナ
リ今日ノ行使ト明日ノ行使トヲ合セテ始メテ一箇ノ罪
ト爲ルモノニ非ス一回之ヲ用ユレハ則チ一箇ノ罪ヲ爲
ス者ニシテ終始連續スルニ非ス或ハ斷ヘ或ハ續キ以テ
同種ノ罪ヲ累スルナリ其偽造變造ノ度量衡ヲ使用スル
モ亦同一ナリトス(連續犯ハ多少ハ時間犯事ハ存續スル
者ニシテ即時犯トハ恰モ表裏ノ差アリ商賈農工ニシテ
定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シ(刑法第二百二
十九條第二項)又ハ陸
海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ私ニ所
有スル(刑法第百
六十條)カ如キハ連續ノ犯罪ニシテ一日間之ヲ

所有スルモ一月若クハ一年間之ヲ所有スルモ一箇ノ犯
 罪ヲ成立スルニ過キス其連續犯ト異ナル所ハ彼ハ其性
 質即時犯ニシテ唯其犯罪ノ方法ニ因リ同種ノ罪數箇ヲ
 連續シ此ハ始ヨリ終ニ至ルマテ一箇ノ罪ヲ連接シ其間
 ニ斷テ又續クアルナシ此等ノ區別ヲ爲スノ利益ニア
 リ一ハ公訴期滿免除起算ノ點ニ在リ即時犯ノ公訴期滿
 免除ハ犯罪ノ日ヨリ起算シ繼續犯罪ノ期滿免除ハ其最
 終ノ日ヨリ起算ス(治罪法第一八處刑ノ點ニ在リ即時犯
 ハ其犯時ニ於テ直ニ事ヲ結了スヘキカ故ニ處刑ニ差
 異ヲ生スルノ理ナシト雖モ繼續犯ニ至テハ犯時ノ長短
 ニ因テ其刑ヲ酌量スルヲ要ス而シテ之ヲ酌量スルニ又
 二箇ノ區別アリ一ハ刑法第三百二十二條ニ掲載スル監

禁ノ如ク立法官ニ於テ既ニ之ヲ定メタル者一ハ法條ニ
 規定スルヲナク專ハラ裁判官ノ見ル所ニ放任スル者ト
 ス以上記載スル所即時連續繼續ノ三種ニ別ツト雖モ治
 罪法ニハ連續犯ナル者ヲシ故ニ今此ニ區別スル連續犯
 モ亦治罪法ニ於テハ繼續犯ナル文字中ニ在ルベキ者ト
 ス

第九條 通常犯特別犯

通常犯ハ刑法又ハ其他ノ規則ニ因リ何人ト雖モ一般ニ
 犯シ得ヘキ罪ヲ謂ヒ特別犯トハ一種ハ職業ヲ爲ス者或
 ハ一部ノ人ニ非カレハ決シテ犯スヲナキ罪ヲ謂フ者ア
 リ又刑法ニ記載シタル罪ヲ犯スノミチ通常犯トナシ刑
 法外ニ係ル規則即チ郵便罰則賣藥規則新聞條例出版條

例等ニ關スル罪ヲ犯ス者特別犯ト稱スル者アリ

第十條 現行犯、非現行犯

現行犯ハ現ニ其罪ヲ犯シ又ハ現ニ其罪事ヲ行ヒ終リタル時ヲ謂フ此二箇ノ現行犯タルトハ最モ分明ナルヲ以テ一點ノ疑ヲ容ル可キナシ而シテ治罪法第百二條ニ據レハ前二箇ノ外尙ホ之ニ准シテ現行犯ト爲ス者アリ犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時兇器、贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帶シタル時、家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタル時、是レナリ又明治十四年(九月二十日)第四十六號布告ニ據レハ其舉動犯人ト思料ス可キ者アル時ハ(當分ノ内)現行犯ニ准シ處分スルヲ得ヘキ旨ヲ定メダリ以上

列記スル所ノ外皆非現行犯ニシテ其處分上大ニ異ナル所アリトス蓋シ非現行犯ハ治罪法中一般ノ例規ニ因ラセレハ之レカ處分ヲ爲ストヲ得スト雖モ現行犯ト之ニ准スル者トハ治罪法第百二條ヨリ第百六條マテノ規則ニ從テ處分スルヲ得ヘシ此現行及非現行ノ區別ハ裁判所ノ管轄ト公訴ノ手續ニ於テ差異アルヲ知ルノ益アリトス又自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者(刑法第百九條第三)本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者(刑法第百一三條)如キ共ニ現行犯ノ場合ニ非サレハ法律上ノ宥恕ヲ受クルヲ得ス又身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムトス得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者(刑法第百三十四條)財産ニ

對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止シ又ハ盜犯ヲ防止シ
或ハ夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶
牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スル爲
メ人ヲ殺傷シ(刑法第三
百十五條)タル時ノ如キモ亦現行犯ノ場合
ニ非サレハ不論罪ト爲スヲ得ザル者トス

第十一條 附帶ノ犯罪、附帶ニ非サル犯罪

附帶ノ犯罪ハ數箇ノ犯罪相牽聯スル者トシ治罪法第三
十九條ニ曰ク左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス、一
同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シ
タル時、二數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯
シタル時、三自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ
其罪ヲ免ル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時此他ノ犯罪ハ總

テ附帶ニ非サル者トス而シテ治罪法第三十九條第三項
中ニハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル場
合ヲ記セスト雖モ是亦附帶ノ犯罪タルヘシ(刑法第三百
九十六條第
三項)
三百三條ハ附帶此附帶犯罪ト附帶犯罪ニ非サル者トノ
區別ハ治罪ノ手續上ニ付キ大ニ利益アリ附帶ノ犯罪ハ
輕重大小ノ異アルモ皆同一ノ裁判所ニ於テ管轄ス又凡
ソ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲ス可カラサ
ルヲ例規トスルモ辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ハ
檢察官ノ公訴ナキモ例外トシテ裁判ヲ爲スヲ得ヘシ
(治罪法第二
百七十六條)又治罪法第二百五十五條ノ如キモ亦附帶犯
罪ノ他ノ犯罪ニ異ナル所ヲ定示セリ

第二節 法ノ效力

第十二條

法ノ效力ハ即チ法ノ權力ニシテ刑法第二條第三條第四條第五條ニ依レハ決シテ廣漠無限ナル者ニ非ス凡ソ法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得サルニ因リ何程社會ニ害アリ何程道德ニ悖レル所爲ト雖モ法ニ明文ナキ時ハ人々皆爲シ得ヘキ事ト看做サル可カラス故ニ法モ亦之ヲ罪ト爲シ罰スルヲ得サル者ナリ蓋シ法ノ權力如何ヲ定ムルハ其法律ニ明文ヲ掲クル者ニ就テ之ヲ論ス可シ其明文アラサル者ハ法ノ關涉スル能ハサル所ニシテ固ヨリ之ヲ限外ニ措クカ故ニ其區域ノ廣狹ヲ問フノ要アラサレバナリ而シテ刑法第二條ノ正條ナル文字ハ最モ嚴格ナル意義ニ詳釋ヲ爲サ

第十三條

ル可カラス故ニ彼ノ生ルカ如ク死セルカ如ク解釋ノ如何ニ因テ其存廢ヲ異ニスルカ如キ者ハ畢竟法文ノ完全ナラサルヨリ生スルノ害ナリト雖モ亦徒ラニ文字ノ類似ト其接合トニ因リ比附援引シテ正條ノ文字ヲ解釋ス可カラス

凡ソ人タル者法律規則ノ禁止セサル事ハ隨意ニ之ヲ爲スノ權アリ而シテ未ダ嘗テ世ニ公布セサル法律又ハ規則ヲ豫メ遵守ス可キノ義務アルトナシ故ニ道義ニ背キ社會ニ害アル行事ハ先ツ法章ヲ定メ以テ明カニ之レカ禁止ヲ爲サ、ル可カラス法章ノ禁止アリテ然ル後人始メテ之ニ遵フ可キノ義務ヲ生ス既ニ此義務アリテ而シ

テ之ニ背ケハ則チ是レ罪ヲ犯スナリ之ニ反シテ未タ法律ノ明禁ヲ爲サ、ル時ハ其行フ所ノ事之ヲ罪ト謂フ可
 ガラス蓋シ是レ人々隨意ニ爲シ得ヘキ權ヲ行ヒタル者
 ニシテ未タ嘗テ義務ニ背キシヲナケレハナリ然ルニ若
 シ其事後ニ定メタル法律ヲ以テ之レヲ罰ストセハ是レ
 法ノ權力キシテ既往ニ遡ラシムル者ニシテ人民ノ權利
 ヲ攪亂スルヲ甚クシ故ニ刑法第三條ニ於テ法ノ效力ハ
 頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得サル旨ヲ定メタリ

第十四條

法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得サルヲ以テ
 原則トスレモ又其例外ナキニ非ス乃ハチ罪ヲ犯シ未タ
 判決ヲ經スシテ新法ノ頒布ニ遇フトキハ新舊兩法ヲ比

較シ若シ新法ニ擬スルヲ輕シトスレハ則チ頒布以前ノ
 犯罪ニ及ホス者トス、刑法第三條第二項此法タル決シテ道理ニ背
 戾スル者ニ非ス何トナレハ凡ソ法ヲ廢止シ若クハ改正
 スルハ其刑ノ嚴酷ニ過クルカ或ハ社會ニ必要ナラスト
 認メシニ因ルナリ己ニ過酷ナリ必要ナラスト認ムレハ
 之ヲ適施スルモ其效益ナキハ言ヲ俟タサルナリ其已ニ
 效益ナキヲ知テ尙ホ之ヲ適施スルトセハ豈ニ道理ニ背
 戾スル者ニアラスヤ况ンヤ新法ハ其刑輕ク而シテ社會
 ニ必要ナルノミナラス犯者ニ於テモ亦甚ク利益ヲ享ル
 ヲヤ是レ例外トシテ既往ニ及ホス所以ナリ蓋シ比照ノ
 方法ハ明治十四年第八拾一號布告(十二月廿八日)ヲ以テ
 之ヲ定メタリ而シテ此公布ニ據レハ新法頒布ヲ境界ト

爲シ其以前ニ係ル數罪アレハ先ツ舊法ニ依テ其重キ一
罪ヲ定メ頒布以後ニ係ル數罪ハ新法ニ依テ其重キ一罪
ヲ定メ然ル後新舊ノ輕重ヲ比較シ孰レカ其輕キ者ニ從
フ者トス故ニ舊法ノ行ハレシ時ノ一罪ト新法頒布後ノ
一罪トヲ取り交互錯雜シテ比照ヲ爲ス可カラズ

第十五條

陸海軍刑法ニ於テ論ス可キ者即チ陸海軍裁判所ニ於テ
裁判ス可キ所爲ハ此刑法ノ效力ヲ及ホストヲ得サル者
トス(刑法第四條及九條)而シテ者ナル文字ハ陸海軍ニ關
スル法律ヲ以テ論ス可キ犯罪ヲ指スモノナルヤ或ハ其
人ヲ指スモノナルヤヲ疑フ者アリト雖モ刑法第四條ニ
於テハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キトアリテ苟

モ陸海軍法律ノ關スル所ハ總テ其法律ニ適用ヲ讓リタ
ル者トス而シテ陸軍刑法第十二條第十三條及ヒ海軍刑
法第三條第四條ニ據レハ陸海軍刑法中若干ノ所爲ハ軍
人ニ非サル者ト雖モ陸海軍刑法ニ因テ處斷スル旨ヲ定
メグリ又軍人軍屬陸海軍出仕ノ文官或ハ生徒或ハ宣誓
若クハ讀法ノ式ニ由リ陸海軍ニ從事スル者ハ通常陸海
軍法律ノ處斷ヲ受ク可シト雖モ此等ノ法律ニ於テ全ク
明文ナキ所爲ナレハ普通刑法ニ從テ普通裁判所ノ裁判
ヲ受ク可キ者トス此ニ由テ之ヲ觀レハ常人ト雖モ其所
爲ニ因リ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論スル時アリ又軍
人軍屬ト雖モ犯罪ノ性質ニ因リ普通刑法ヲ以テ處斷セ
ラル、コトヲトス故ニ刑法第四條ノ者ナル文字ハ專ラ

所爲ヲ指ス者ニシテ犯ス者ハ身分如何ニ關係アラサル
モハトス

第十六條

刑法第五條ノ文詞ニ據レハ將來ト既往トヲ論セス特別
ノ法律ニ關スル者ニ刑法ノ權力ヲ及ホサルニ箇ノ條
則ヲ定メタル者トス第一刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律
規則ニ刑名アル者ハ各其特別ノ法律規則ニ從フ可シ若
シ刑法ト他ノ法律規則ト共ニ正條アル者即チ讒謗律ノ
如キハ刑法ノ正條ニ依テ處斷ス可シ(明治十四年第七十
二號公布ノ第六條十
蓋シ刑法ハ一般ノ者ナルヲ以テ若シ特別法ニ明文アレ
ハ則チ其適用ヲ讓ルハ理マサニ然ルヘシト雖モ既ニ特
別法ノ明文アリ然ルニ刑法又正條ヲ置クトキハ特別法

ノ明文ハ自ラ改刪セラレシ者タルニ因リ復タ之ニ依ル
可キノ理アラサルナリ第二特別法ニ於テ別ニ總則ヲ揭
ケタル時ハ刑法ノ效力ヲ其法ニ讓ル者トシ其總則ナキ
者ハ當然刑法ノ總則ヲ適用ス蓋シ我國未タ特別法ノ別
ニ總則ヲ揭ケタル者アルヲ見ス唯其罰例ニ係ル者ハ明
治十四年(十二月二十八日)第七十二號公布アルノミトス
其第五條ニ曰ク法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯
加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス又其第七條ニ曰ク前數
條ノ罪ヲ犯シ拘留料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ
於テ之ヲ裁判ス但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治
安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ト今此布告ノ定メ
タル所ハ總則中ニ在ル可キ性質ノ者ト雖モ未タ以テ別

段ノ總則ト稱スルニ足ラサルカ如シ故ニ此布告ノ未タ
掲ケサル所ハ尙ホ刑法ノ總則ヲ適用ス可シ

第二章 刑例

第一節 刑名

第十七條

刑ノ種類ハ罪ノ種類ノ如ク法ハ定ムル所ト法官ハ見ル
所トニ由リテ相別ル者ニ非ス唯罪ハ三等ノ區別ト相
對シテ法ノ定メタル種類アルノミトス故ニ重罪ニハ重
罪ノ刑ヲ科シ輕罪ニハ輕罪ノ刑ヲ科シ違警罪ニハ違警
罪ノ刑ヲ科ス然レモ重罪ニ科スヘキ刑ニ主刑附加刑ノ
區別アリ且其主刑附加刑中又種々ノ區別アリ其輕罪違
警罪ニ科スヘキ刑モ亦同シトス重罪ニ科ス可キ刑ハ死

刑、無期徒刑、有期徒刑、無期流刑、有期流刑、重懲役、輕懲役、重
禁獄、輕禁獄ニシテ之ヲ主刑ト爲シ（刑法第七條）剝奪公權、禁治
產、監視、沒收ヲ以テ附加刑ト爲ス（刑法第十條）輕罪ニ科スヘキ
刑ハ重禁錮、輕禁錮、罰金ヲ主刑ト爲シ（刑法第八條）停止公權、監
視、沒收ヲ以テ附加刑ト爲ス（刑法第十條）違警罪ニ科ス可キ刑
ハ拘留、科料ヲ以テ主刑ト爲シ（刑法第九條）附加刑ハ唯沒收ノ
一アルノミ而シテ重罪刑中ノ死刑、無期流刑、有期流刑、重
禁獄、輕禁獄及ヒ輕罪刑中ノ輕禁錮ハ之ヲ國事犯ニ適用
ス但輕禁錮ハ國事犯ニ非サル罪ト雖モ間亦適用スル
アリ（參觀第二十七條）又重輕罪ヲ問ハス主刑ハ必ス宣告ス
ルヲ要シ附加刑ハ別ニ宣告ヲ爲スニ非サレハ效ナキ者
アリ又宣告ヲ爲サ、ルモ主刑ノ宣告アレハ自カラ附加

スル者アリトス

第二節 重罪主刑ノ處分

第十八條 死刑

死刑ハ諸刑ノ首位ニ在ル者ニシテ其性質他ノ諸刑ト同シカラス一タヒ之ヲ執行スレハ復ク回復ス可カラザル者トス故ニ死刑ノ宣告ヲ爲シ其裁判已ニ確定スト雖モ唯其確定ノミチ以テ直チニ執行スルヲ得ス尙ホ必ス司法卿ノ命令アルヲ待チ然ル後始メテ着手ヲ爲スナリ（治罪法第四百六十二條第四百六十條）而シテ其執行ハ檢察官ノ指揮ニ因リ書記及ヒ獄司刑場ニ立會ヒ獄司ヨリ死刑ノ執行ヲ爲スヘキ旨ヲ囚人ニ告知シ然ル後獄丁ヲシテ決行セシムルモノニシテ其期限ハ必ス午前第十時以前ニ在

リトス（刑法附則第一條）

第十九條

刑法第十四條ハ死刑ノ執行ニ一ノ制限ヲ置キタル者トス其大祀、令節、國祭ノ日ハ刑法附則第四條ニ定ムル所ニシテ元始祭、孝明天皇祭、紀元節、春季皇靈祭、仁孝天皇祭、神武天皇祭、六月大祓、秋季皇靈祭、神宮神嘗祭、天長節、後桃園天皇祭、新嘗祭、光格天皇祭、十二月大祓是レナリ此十數箇ノ日ハ死刑ノ執行ヲ爲スヲ得サルナリ蓋シ司法卿ニ於テ死刑ヲ執行ス可キ命令ヲ下ス時ハ必ス三日内ニ其施行ヲ爲ス可シト雖モ若シ三日ノ内前二日ハ日曜日或ハ臨時ノ休日ニシテ最終ノ日此十數箇中ノ日ニ當ル時ハ假令三日ヲ過クルモ執行セスシテ妨ナキ者トス（治罪法第四百

六十條 舊律ニ於テハ死囚奏請待報ノ法アリ又禁刑ノ日ニ於テ決スル者ハ答三十ノ明文ヲ揭ケ且明治六年司法省第三十二號ヲ以テ除刑罰拷問之日ヲ定メラレタル旨ノ達アリ其止刑日ヲ列記シタル末項ニ皇靈御式年祭ナル者アリ又明治八年三月二十七日ノ司法省番外達ニ曰ク皇靈御式年御進祭日ハ兼テ除刑罰拷問ノ御達モ有之候ニ付各皇靈御崩年ヨリ當明治八年迄ノ年算調書一通御回申入置候間壬申第三百號御布告ニ照シ云々ト其下ニ神武天皇祭日ヨリ孝明天皇ニ至ルマテ歷代天皇崩御ノ日ヲ列記セリ是レ則チ禁刑ノ日ヲ定メタル者ニシテ遵守セサル可カラルノ法則ナリ然ルニ刑法ニ於テハ大祀令節國祭ノ日ト記シ其附則第四條ニ元始祭以下前ニ掲

ケタル十數箇ノ日ヲ列舉スルノミニシテ其他刑法及ヒ其附則中別ニ止刑日ヲ定ムル所ナシ此ニ由テ之ヲ觀レハ明治八年司法省番外ノ達ノ如ク歷代天皇ノ祭日ヲ以テ悉ク止刑ノ日トスルノ法ハ舊律ト共ニ廢止セラレシ者タル可シ故ニ止刑ノ日ハ刑法附則第四條ニ記載スルノ外臨時ノ祭日等ニ止マル者トス

第二十條

刑法第十五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハスト謂ヒ又刑法附則第五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ

其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシトアリ而シテ今刑法ノ懷胎ナル時ノ文詞ニ據レハ其婦女ノ自ラ懷胎ナルヲ申述スルト他ヨリ懷胎ノ容態ヲ認メシトノ區別アルヲナシ然レモ刑法附則ノ申スル者ハノ文字アルヲ見レハ婦女ノ自ラ懷胎ナルヲ申述スルニ非サルヨリハ他ヨリ認メテ以テ懷胎ト爲ス可カラサルカ如シ然レモ附則ハ刑法ニ附属スルノ例則ナリトスル時ハ刑法モ亦申スル者ハノ文義ヲ含ム者ト解釋セサル可カラス故ニ婦女自ラ其懷胎タルヲ申述セサレハ何程懷孕ノ証アルモ他ヨリ申述スルヲ得サルカ如シト雖モ刑法第十五條ノ法意ハ懷胎セル婦女ヲ憫ムニ非スシテ胎中ニ在ル無辜ノ兒子併セテ之ヲ

殺スヲ憫ムナリ然則テ孕婦自ラ其懷胎ナルヲ申述セサルモ他ヨリ見テ以テ懷胎ト認ムルニ足リ而シテ其証據明白ナル時ハ乃ハ亦其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘキヲ自ラ申述セシ時ト同シカル可シ蓋刑法附則第五條ノ申スル者ト謂フハ他ヨリ認ムルヲナキ場合ヲ指ス者トス既ニ胎兒ノ爲メニ執行ヲ停ムルノ法意ナリトセハ孕婦ノ自ラ申スルト他ヨリ認メタルトナ區別スルノ理アラサルナリ

第二十一條

死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ之ヲ埋瘞ス若シ親屬故舊ニシテ請フ者アラハ獄司之ヲ許可シテ下付スルヲ得ヘシ（刑法附則第六條）然レモ其下付ヲ受ケタル

者ハ式ヲ用ヒテ葬ルヲ得ス(刑法附則第十六條)蓋シ遺骸ヲ埋葬
 スルハ下付ヲ受ケタル者ノ隨意ナルヲ以テ法律ノ之ヲ
 制限スル理アルヲナシ且夫死刑ノ主旨タル犯人ノ生
 命ヲ剝奪スルニ在リ既ニ生命ヲ剝奪シ去レハ則チ刑ノ
 執行ヲ終リタル者ナリ凡ソ人ニ罪アリトスルハ其人ノ
 生存中ニ限ルヘキ者ナレハ如何ナル大罪ト雖モ一旦其
 制裁ヲ受ケ終レハ復タ犯罪者ト謂フ可カラスサレハ其
 遺骸ハ毫毛ノ罪質ヲ帶フルヲナキヲ以テ通常無罪純白
 ノ死者ト異ナルヲシ然ルニ式ヲ用ヒテ其遺骸ヲ埋葬セ
 シメサルハ死者ヲ罰スルノ嫌ナキヲ得サルカ如シト雖
 モ刑法第十六條ノ旨趣ハ死刑中ノ一分トシテ式ヲ用ヒ
 テ葬ルヲ得サルノ制裁ヲ含有セシメタル者ニシテ死

後更ニ又遺骸ニ對シ刑ヲ加フルニ非ス故ニ死者ヲ罰ス
 ルノ嫌アルヲナシ(刑法決疑錄參看)

第二十二條

刑法附則第八條ノ死刑ヲ執行シタル時犯人ノ屬籍、氏名、
 年齢、職業、住所及ヒ其罪狀、刑名ヲ記載シ以テ之レカ榜示、
 公告ヲ爲スハ其性質亦一箇ノ附加刑ト謂フ可シ而シテ
 榜示、公告ス可キノ場所ハ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前、
 犯罪ノ地及ヒ犯人住居ノ地ナリトス蓋シ宣告ナル文字
 ハ執行ト見ルヲ可トスヘキ歟然ラサレハ犯由ヲ揭示ス
 ルハ四箇所ト謂ハサル可カラス何トナレハ刑法附則ニ
 於テハ刑ヲ宣告シタル裁判所ト記載アルニ因リ刑ノ言
 渡ヲ爲シタル裁判所ハ必ス其門前ニ揭示ヲ爲サル可

ラス而シテ明治十五年(二月六日)司法省丙第三号達ニ依
 レハ其第一項ニ死刑ノ執行アリタルトキハ云々ト記載
 セリ故ニ此應ニ於テモ亦必ス揭示ヲ爲サ、ル可ラス斯
 ノ如ク已ニ二箇ノ揭示ヲ爲シ又別ニ犯罪ノ地ト犯人住
 居ノ地トニ於テ揭示ヲ爲ス時ハ併セテ四箇ノ揭示ヲ爲
 スモノタル可シ然レモ丙第三號達ハ刑法附則第八條ノ
 手續ヲ定メタル者ニシテ別ニ一箇ノ揭示場ヲ増加セシ
 ニ非ス故ニ宣告ノ文字ハ執行ノ文字ト見做スヲ以テ正
 當ト爲ス可キヲ知ルヘシ又此揭示ハ其場所ニ因リ少差
 アリ死刑ノ執行ヲ爲サシメタル裁判所ニ於テハ宣告書
 ノ全文ヲ掲ケ重罪裁判所ノ名ヲ以テ三日間其門前ニ榜
 示シ其他ハ重罪裁判所書記ニ於テ公告案ヲ製シ東京ハ

警視廳其他ハ府縣廳ニ送達シ警視廳ハ警視總監各府縣
 廳ハ其長官ノ名ヲ以テシ且其宣告文ヲ掲ケ末尾ニ於テ
 右之通宣告相成候ニ付公告スルモノ也ノ一項ヲ添ヘ何
 レモ三日間通街ニ揭示スルナリ

第二十三條 無期徒刑有期徒刑

徒刑ヲ別テ無期有期ノ二トナス有期徒刑ハ十二年以上
 十五年以下トシ刑法第十七條ニ據レハ無期有期共ニ島
 地ニ發遣シ定役ニ服ス可キ者トス然レモ若シ女囚ナル
 時ハ島地ニ發遣スルヲナク内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ
 服セシム(刑法第十八條)又島地發遣ノ囚人ト雖モ男女ニ拘ハラ
 ス)年齡已ニ六十ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力ニ
 相當ナル定役ニ服セシムルナリ(刑法第十九條)而シテ徒刑ハ重

罪刑ノ中直チニ死刑ニ次ク者ナルヲ以テ其服スル所ノ定役モ亦他ノ定役ニ比スルハ甚ク重キ所アリ且其執行ヲ受ルニ當テハ嶋地ノ集治監即チ北海道ノ樺戸若クハ空知集治監ニ送付セラル可シ(監獄則第一條第六項)其之ヲ發遣スルニハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令アルヲ待テ發船ノ地ニ護送ヲ爲ス者トス(刑法附則第九條)然レモ又集治監ノ官吏ハ毎歲三四次囚徒ヲ受取ルカ爲メ臨時ニ派出ヲ爲ス可キニ囚リ或ハ其派出セシ地マテ押送スルコトアルヘシ(監獄則第五十八條)又徒刑ノ囚人ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ或ハ獄外ノ役ニ服セシムルコト得ヘシ(刑法附則第十條)

第二十四條 無期流刑有期流刑

流刑モ亦無期有期ノ二箇ニ分チ有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲シ猶ホ徒刑ノ如ク島地ニ發遣スル者トス然レモ島地ニ於テハ唯之ヲ幽閉スルノミニシテ定役ニ服セシムルコトナシ(刑法第三十條)若シ自ラ工業ニ従事セシコトヲ請フ者アレハ乃ハ之ヲ許可スルナリ(刑法附則第十一條)又無期流刑ノ囚ハ五年有期流刑ノ囚ハ三年ヲ經過シタル後獄司ノ見ル所ニ囚リ之ヲ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ケタル上ニテ幽閉ヲ免スコトヲ得ヘシ幽閉ヲ免シタル時ハ嶋地ニ於テ地ヲ限り居住セシムル者トス而シテ其幽閉ヲ免サレタル者ハ自己ノ家屬ヲ其所ニ招キ之ト同居セシコトヲ請求スルヲ得ヘシ但其家屬ヲ招ク爲メノ費用ハ自ラ之ヲ支辨ス可キ者トス(刑法第二十一條第三條)

又一旦地ヲ限リ居住ヲ許サレタル者ハ固ヨリ縦マヽニ
 他ニ出ルヲ得スト雖モ若シ已ムヲ得サル事故アル時
 ハ獄司ニ稟請シ其許可ヲ得テ或ハ限外ニ出ルヲ得ヘ
 シ蓋シ居住ヲ許サルハ必ス監獄近傍ノ地ニ限リ且其
 居住中ハ獄司ノ監督ヲ受ク可キ者トス(刑法附則第十四條)又此免
 幽閉ハ能ク獄則ヲ謹守シ且改悛ノ情狀アル者ニ與テ可
 キ法律ノ恩典ナルヲ以テ幽閉セラル者ヨリ強テ之ヲ
 要請スルヲ得サルハ固ヨリ論ナク己ニ幽閉ヲ免サレ
 タル後再ヒ罪ヲ犯スヲアレハ本刑期限内ト雖モ嶋地ニ
 於テ其刑ノ執行ヲ受ク可キ者トス(明治十五年三月三日)
第十六號布告參看

第二十五條 重懲役、輕懲役

懲役モ亦別テ二箇ト爲シ重懲役ハ九年以上十一年以下、

輕懲役ハ六年以上八年以下ノ期限ニシテ共ニ定役ニ服
 ス可キ者トス然レモ其年齡六十歳ニ達スル者ハ通常ノ
 定役ヲ免シ其體力ニ相當ナル定役ニ服セシムルヲ猶ホ
 徒刑ノ如シ(刑法第二條)而シテ其執行ヲ受ク可キ處ハ内地
 ノ懲役場ニシテ(監獄則第一條)監獄則第四十一條以下ノ規
 則ニ從ヒ定役ニ服セシムル者トス然レモ便宜ニ因リ時
 トシテ或ハ獄外ノ役ニ服セシムルヲモアルヘシ(刑法附
 則第十條)

第二十六條 重禁獄、輕禁獄

禁獄モ亦別テ重輕ノ二箇ト爲シ重禁獄ノ刑期ハ九年以
 上十一年以下ニシテ輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス
 又其執行ハ内地ノ獄ニ入ル、而已ニシテ定役ニ服セシ

ムルヲナシ(刑法第三條第二)蓋シ此囚ハ刑法第二編第二章ノ國事ニ關スル者ニシテ則チ第六條ニ謂フ所ノ國事犯ナルヲ以テ彼ノ徒刑懲役ニ比スレハ其性質同シカラサルノミナラス其刑モ亦甚ク輕シトス但流刑トハ其性質相同シキニ因リ刑ニ輕重ノ差アリト雖モ尙ホ監獄則第一條第六項ノ集治監ニ入ル可キ者トス而シテ此囚モ亦法ニ於テハ定役ニ服セシメサルモ若シ囚人自ラ獄内ニ於テ工業ヲ爲サント欲スル時ハ獄司ニ稟請シ其許可ヲ得テ之ヲ爲スヲ得ヘシ(刑法附則第十七條)蓋シ其囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ總テ監獄則ニ從フナリ(刑法附則第十九條)

第三節 輕罪主刑ノ處分

第二十七條 重禁錮、輕禁錮

禁錮モ亦重輕ニ箇ニ分チ其刑期ハ重禁錮ト輕禁錮トヲ別タス共ニ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各箇ノ犯罪ニ因リ其期限ニ長短ノ區別アリ(刑法第二十九條)又此兩禁錮ハ輕罪ノ刑ナルヲ以テ五年ノ極度ニ處ス可キ者ニシテ尙ホ加重ス可キノ理由アレハ直チニ重罪ニ入ルヘキカ如キモ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ許サハルハ刑法ノ原則ナルヲ以テ此ノ如キ場合ゾミ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ヘシ蓋シ特例ナリ(刑法第七十條)而シテ重禁錮ハ一般ノ犯罪ニ適用ス可キ者ニシテ一定ノ服役アレハ輕禁錮ハ刑法第二編第二章ノ國事犯及ヒ其第五百五十二條第百七十七條第百三十二條第百三十三條ヨリ第百三十

六條マテ第二百四十六條ヨリ第二百四十九條マテ第二百七十三條等ノ如ク或ハ公益ニ關スル罪ノミニ適用ス可キ者ニシテ定役アルヲナシ其禁錮場ニ留置スルハ重輕相同シ(刑法第二十四條第二)禁錮場ハ監獄則第一條第五項ニ謂フ所ノ懲役場中ニ在ル者ニシテ重禁錮ノ定役ハ監獄則第四十一條以下ノ規則ニ從ヒ尙ホ便宜ニ因リ或ハ獄外ノ役ニ服セシムルヲアリス(刑法附則第十六條)輕禁錮ハ定役ナシト雖モ若シ自ラ工業ニ從事センヲ欲スレハ之ヲ獄司ニ請フテ得ヘキト流刑禁獄ノ囚ト異ナルナシ

第二十八條

以上列記セン諸刑中無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役及ヒ重禁錮ノ如ク定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則

ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但其現役百日以上ハ給與スルヲナシトス而シテ此百日ト謂フ者ハ百日以下ノ刑ニ處セラル、者ハ固ヨリ論ナク百日以上ノ刑ニ處セラレシ者ト雖モ百日マテハ給與セサルナリ(刑法第二十五條第二)監獄則第五十一條ニ依レハ定役ニ服ス可キ囚徒現役百日ヲ經レハ始メテ其工錢ヲ料定シ之ヲ十分シ、重罪囚ニハ其一分ヲ與ヘ輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ムルモノトス又定役ニ服セサル囚徒ノ自ラ好テ爲シタル作業ノ工錢モ亦之ヲ十分シ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ囚徒ニ與フ又定役ニ服スル囚徒當日ノ料程ヲ成シ畢リテ仍ホ作業スル時ハ其料程外ニ屬スル工錢ハ定役ニ服セサル囚徒ノ工錢ト

同シク十分ノ七ヲ與フル者トス蓋シ重罪囚ト輕罪囚ト
ヲ區別スルヲオシ

第二十九條

刑法第二十五條ノ現役百日以内トアルハ其犯罪ノ初犯
ト再犯トヲ區別スルヲナシ故ニ刑法附則第十八條ニ曰
ク服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑
期百日以内ハ工錢ヲ給與セスト此再ヒノ文字ハ決シテ
再度ニ限ル者ニ非ス猶ホ刑法ノ單ニ再犯加重ト謂ヒ而
シテ三犯四犯モ其中ニ包含セシムルカ如シ故ニ刑期限
内ノ犯罪ハ三回四回ニ及フモ百日以内ハ給與ヲ爲サ
ル者トス

第三十條 罰金

輕罪ニ於テ罰金ハ主刑トナルコトアリ附加刑トナルコト
アリ而シテ今此ニ記スル所ハ主刑タル時ニテハ刑法第
二十六條ニ罰金ハ二圓以上十圓以下トアリ而シテ其
多數ノ極點ヲ定メス又仍ホ各本條ニ於テ其多數ヲ區別
ストアルモ刑法各條中獨リ寡數ヲ定メテ多數ヲ定メサ
ル者アル其第九十三條ノ如キ則チ是レナリ蓋シ罰金
ノ刑タル刑法中獨ク其金額甚ク少ク特別法ニ
係ル者ハ其金額甚ク多シ且其文モ亦單ニ其幾倍ヲ科ス
ト謂フカ如ク豫シメ其額ヲ量知ヌ可カラサル者多シ故
ニ又其下極ノミヲ定メタル場合多シトス

第三十一條

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者控訴又ハ上告ヲ爲シ其判決

リタル時又ハ上訴ヲ爲サス其期限ヲ經過シ裁判已ニ確定スレハ其日ヨリ一ヶ月内ニ完納セシム若シ一ヶ月ヲ過キ尙ホ納完セサル者ハ罰金一圓ヲ一日ニ計算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ而シテ其剩數ノ一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算スル者トス蓋シ納完セサルノ文字ハ納完シ能ハサル者ヲモ包含ス故ニ資カアリテ出サハル者ト全ク出ス可キ資カナキ者トヲ問フナシ而シテ罰金ヲ禁錮ニ換フルハ更ニ裁判ヲ爲スナク檢察官ノ求メアレハ裁判官ニ於テ之ヲ命スルノミ而シテ罰金ノ額ハ何程巨大ナルモ禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得サルナリ又已ニ輕禁錮ニ換フルト雖モ其期限即チ刑期内ニ在テ親屬若クハ其他ノ者ヨリ囚人ノ爲メ罰金ヲ代納ス

ルヲアレハ即チ其已ニ經過シタル日數ヲ扣除シ禁錮ヲ免ス但其經過シタル日數ハ一圓ヲ一日ニ計算スルナリ
(刑法第二十七條第二項) 若シ罰金ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前犯人死去スル時ハ徵收スルヲナシ
(刑法第二十條)

第四節 違警罪主刑ノ處分

第三十二條 拘留

拘留ハ身体ニ加フル最輕ノ刑ニシテ拘留場ニ留置シ或ハ裁判所若クハ警察署ニ屬スル拘留場ニ拘留スルノミニシテ定役ニ服スルヲナシ其刑期ハ一日以上十日以下ニシテ仍ホ其罪ノ輕重ニ因リ長短ノ區別アリトス
(刑法第二十八條及ヒ監獄則第一條ノ第一項第二項)

第三十三條 科料

科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ニシテ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ノ區別アリ而シテ其宣告ヲ受クタル者裁判確定ノ日ヨリ十日間ニ納完ヲ爲サレハ其資力アリテ爲カ、ルト資力ナクシテ爲ス能ハサルトヲ問ハス刑法第二十七條ノ例ニ從ヒ一圓ヲ一日ニ計算スルノ法ヲ以テ之ヲ拘留ニ換フ然レモ其金額本ト甚ダ少ナキニ因リ拘留モ亦三日ニ過クルヲナシ而シテ其拘留ニ換ユルノ法ハ更ニ裁判ヲ用ユルヲナク檢察官ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命シ已ニ拘留ニ換ヘタル後親屬其他ノ者代テ科料ヲ納ムルアレハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ拘留ヲ免スモノトス若シ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサル前ニ於テ犯人死去スル時ハ之ヲ徵收セス

第三十四條

拘留ノ刑期、科料ノ金額ハ刑法第二十八條第二十九條ニ於テ之ヲ定ムルト雖モ犯人ノ情狀ニ因リ其高極ニ處スヘキニ尙ホ加重スヘキ事由アル時ハ直チニ輕罪ニ入ル可キカ如シ然レモ違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得サルハ、刑法ノ原則ナルヲ以テ只拘留ノ日數ハ加ヘテ十二日ニ至リ科料ノ金額ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得ヘキノミトス（刑法第七項）故ニ此場合ノ科料ヲ拘留ニ換フル時ハ一圓ヲ一日ニ計算シ二日トナシ尙ホ科料ニ剩數ヲ生ス可シ此剩數ハ一圓ニ滿タスト雖モ刑法第三十條中第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フトアルニ由リ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ノ拘留ニ計算

セサルヲ得ス故ニ科料ニ換ヘタル拘留ハ三日ニ至ルヲアルナリ

第五節 重罪附加刑ノ處分

第三十五條 剝奪公權

剝奪公權ハ重罪ノ刑ニ自ラ附加スル者ニシテ別ニ宣告ヲ受クルルヲナキモ重罪主刑ノ宣告アルヤ輒ハテ公權ヲ剝奪セラル、ナリ且夫レ重罪ノ主刑ハ其期限ヲ終レハ當然消滅ニ歸ス可シト雖モ剝奪公權ハ其性質附加刑ニシテ其效ハ却テ終身ニ及フ者トス(刑法第三十二條)故ニ主刑ヲ終ルモ別ニ復權ヲ得ルニ非サレハ決シテ消滅セサルナリ(治罪法第四百七十一條以下)公權ト稱スル者ハ刑法第三十一條ニ列記スル所ノ諸權ナリ第一國民ノ特權第二官吏ト爲ルノ

權第三勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權第四外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權第五兵籍ニ入ルノ權第六裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ格別ナリトス第七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ格別ナリトス第八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權第九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權是レナリ

第三十六條 禁治產

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ爲スルヲナク其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ許サス(刑法第三十三條)而シテ主刑ノ終ルマテト謂フ語ハ必スシモ期限アル刑ノミチ指スニ非ス苟モ重罪刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ皆

自ラ財産ヲ治ムルヲ禁スルナリ故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者其行刑ニ至ルマテハ其日數ノ多少ニ拘ハラス自ラ財産ヲ治ムルノ權ナキモノトス然レモ自ラ財産ヲ治メシメサレハ或ハ之ヲ管守スル者ナク爲メニ散亡佚失スルコトアルニ至ル可シ故ニ犯者ニ於テ親屬ニ管理セシメ又ハ其他ノ者ニ保護ヲ爲サシメントスル時ハ之ヲ許ス者トス

第三十七條

無期流刑ノ囚刑期五年ヲ經過シ有期流刑ノ囚刑期三年ヲ經過スル時ハ刑法第二十一條ニ因リ幽閉ヲ免シ嶋地ニ於テ地ヲ限リ居住セシム已ニ幽閉ヲ免ス時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ヘシ（刑法第六

（條）是レ實際ハ生活ニ必要ナルコトアルベキヲ以テナリ何トナレハ一旦幽閉ヲ免セラレタル時ハ家屬ヲ招キ同居ヲ爲スヲ得ヘキニ因リ治産ノ禁ノ幾分ヲ許スニ非サレハ父母妻子ヲ養フヲ得サルノミナラス或ハ自ラ生活スル能ハサルノ場合アルヘケレハナリ蓋シ幾分ノ文字ハ犯人生計ノ摸樣ニ因ル者ニシテ其限界ヲ定ムルハ行政官吏ノ見ル所ニ任スル者トス

第三十八條 監視

監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官ニ於テ犯人ノ行狀ヲ監視スル者ニシテ（刑法附則）重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告スルコトナク有期徒刑、有期流刑ニハ四年重懲役、重禁獄ニハ三年輕懲役、輕禁獄

ニハ二年ノ監視ヲ附加スルナリ（刑法第三十七條第三）若シ死刑若クハ無期徒流刑ノ宣告ヲ受ケタル者刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ別ニ宣告スルヲナク五年間ノ監視ニ付ス可キ者トス

第三十九條

通常監視ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スル者トス此終リタル日トハ放免ノ日ヲ指稱シ刑期最終ノ日ヲ謂フニ非ス刑期已ニ終レハ直チニ放免スヘシ而シテ其放免ノ日ハ刑法第四十九條第二項ニ於テ刑期ニ算入セサル旨ヲ明記セリ故ニ今日刑期ノ終ル者ハ明日ニ至ラサレハ身体ノ自由ヲ得ヘカラス而シテ明日ハ即チ監視刑期ノ初日ナリトス然レモ若シ主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ

主刑ノ終ル日ナキヲ以テ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス若シ刑法第二百二十六條ノ罪ヲ犯シ又ハ其第二百九十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ其事ヲ行ハサル前或ハ未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル如ク本刑即チ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付スル時ハ其裁判ノ確定セシ日ヨリ起算スル者トス（刑法第四十條）又此主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免ルシテ止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ニ於テ犯人ノ豫シメタル住所ノ警察所ニ護送スヘキモノトス（刑法附則第二十二條）

第四十條

監視ニ付ス可キ者ハ豫シメ其居住ス可キ處ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ其監視ノ起算及ヒ滿期ヲ記

載シタル文書并ニ刑名宣告書ノ謄本ヲ附シ其居住ス可
 キ地ノ警察署ニ護送シテ監視ノ執行ヲ爲サシムルナリ
 (刑法附則第二十條)若シ其住所遠地ニ在ル時ハ獄司若クハ
 檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察署ニ護送シ其警察署ハ更ニ
 住居ノ地ノ警察署ニ送致シ且監視ノ起算滿期ヲ記載シ
 タル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ遞送ス(刑法附則第
 シテ犯人ニハ里數ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ
 到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察署ニ差出サシムルナリ
 若シ其犯人途中ニ於テ天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯
 スル時ハ其地ノ警察署ニ事由ヲ具申シ官吏ノ証書ヲ受
 ケ之ヲ旅券ニ添へ到着地ノ警察署ニ差出ス可シ(刑法附
 第十五條及ヒ第三十一條)

第四十一條

獄司ヨリ護送ヲ受ケ又ハ他ノ警察署ヨリ送致ヲ受ケタ
 ル警察署即チ犯人居住地ノ警察署ニ於テハ監視ノ期限
 間遵守ス可キ條件ヲ讀聞セ監視ノ票ヲ下付ス可キモノ
 トス(刑法附則第)又監視ノ期限間ハ警察官ニ於テ時宜ニ
 因リ犯人ノ家宅ニ臨檢スルヲアル可シトス(刑法附則第
 四十二條)

第四十二條

監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守セサ
 ルヲ得ス、一、毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ
 チ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ若シ疾病
 其他已ムトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヲ能ハサ
 ル時ハ其自由ヲ届出ルヲ、二、酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群

集ノ場所ニ參會スルヲ得サルヲ、三、事故アリテ其住居ヲ移轉セントスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可キ
 一、四、擅ニ他ノ地方ニ旅行ヲ爲スヲ得ス若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
 (刑法附則第) 犯人此規則ニ從ヒ其住居ヲ移轉セシムルヲ申請シ警察署ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住地ノ警察署ニ通知シ監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ遞送ス可シ
 (刑法附則第) 又犯人ノ旅行ヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
 シ而シテ犯人先方ノ地ニ到着スレハ其地ノ警察署ニ到リ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定セラレタル日數内

ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察署ニ還納ス可シ若シ旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ト共ニ警察署ニ差出ス可シ
 (刑法附則第三十條第三十一條)

第四十三條

監視ニ付スル者住居ナク或ハ引取人ナク若クハ住居遠隔ノ地ニ在テ歸着ス可キ資力ナキ者ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ或ハ使役ニ供ス
 (刑法附則第) 然レモ其留置セラレタル期限内引取人ヲ得又ハ自ら住居ノ地ニ歸着ス可キ資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シ殘期ノ監視ヲ執行セシムル者トス
 (刑法附則第)

第四十四條

監視ノ附加ス可キ罪ヲ犯シ其主刑ノ期限内ニ在テ再ヒ監視ノ附加ス可キ罪ヲ犯シタル時ハ主刑満限ノ後前後ノ期限内ヲ通算シテ監視ヲ執行スヘキモノトス又監視ノ期限内再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ其再犯ノ主刑ヲ終リタル後前ノ監視ニ通算シテ後ノ監視ヲ執行ス(刑法附則第三十四條)

第四十五條

監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ仮リニ監視ヲ免セラル、トアリ(刑法第四十一條)其情狀トハ規則ヲ遵守シ峻改ノ狀アルヲ謂フ者ニシテ警察官ヨリ其實事ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ仮リニ免スルナリ(刑法附則第二十二條)

第四十六條 沒收

刑法中ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル法條及ヒ特別ノ法律規則ニ於テ別ニ其例ヲ定メタル時ヲ除ク外一般ニ及ホスヘキ沒收ハ三種ノ物件ニ限ル者トス第一、法律ニ於テ禁制シタル物件、第二、犯罪ノ用ニ供シタル物件、第三、犯罪ニ因テ得タル物件是レナリ而シテ第一ノ物件ハ一般人民ノ得テ所有スヘカラサル物ナレハ何人ノ所有タルヲ問ハス之ヲ沒收ス第二及ヒ第三ノ物件ハ犯人ノ所有タル時或ハ所有主ナキ時ニ非サレハ沒收スルヲ得サルモノトス而シテ刑法中別ニ沒收ノ例アル者ハ第六十一條ノ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造スル器械ノ如キ是レナリ特別ノ法律ニ係ル

監視ノ附加ス可キ罪ヲ犯シ其主刑ノ期限内ニ在テ再ヒ監視ノ附加ス可キ罪ヲ犯シタル時ハ主刑満限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スヘキモノトス又監視ノ期限内再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ其再犯ノ主刑ヲ終リタル後前ノ監視ニ通算シテ後ノ監視ヲ執行ス(刑法附則第三十四條)

第四十五條

監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ仮リニ監視ヲ免セラル、トアリ(刑法第四條)其情狀トハ規則ヲ遵守シ俊改ノ狀アルヲ謂フ者ニシテ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ仮リニ免スルナリ(刑法附則第二十二條)

第四十六條 沒收

刑法中ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル法條及ヒ特別ノ法律規則ニ於テ別ニ其例ヲ定メタル時ヲ除クノ外一般ニ及ホスヘキ沒收ハ三種ノ物件ニ限ル者トス第一、法律ニ於テ禁制シタル物件、第二、犯罪ノ用ニ供シタル物件、第三、犯罪ニ因テ得タル物件是レナリ而シテ第一ノ物件ハ一般人民ノ得テ所有スヘカラサル物ナレハ何人ノ所有タルヲ問ハス之ヲ沒收ス第二及ヒ第三ノ物件ハ犯人ノ所有タル時或ハ所有主ナキ時ニ非サレハ沒收スルヲ得サルモノトス而シテ刑法中別ニ沒收ノ例アル者ハ第六十一條ノ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造スル器械ノ如キ是レナリ特別ノ法律ニ係ル

者ハ出版條例、賣藥規則、印紙規則、牛馬賣買規則、廻送取締規則等ノ如キ皆是ナリ(刑法第四十三條)而シテ其沒收シタル物品ノ處分ハ檢察官ニ於テ之ヲ爲ス者トス(治罪法第四百六十條)(明治十五年五月十一日)(司法省丙第二十號達)

第六節 輕罪附加刑ノ處分

第四十七條 停止公權

輕重ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ナキモ自ラ此附加刑アルモノトス故ニ現任ノ官職ハ之ヲ失ヒ且其刑ノ期間間ハ刑法第三十一條ノ第一項ヨリ第九項マテニ記列スル公權ヲ行フヲ停止スル者トス(刑法第三十條)而シテ其刑期間ノミ公權ヲ行フヲ停止スト雖モ現任ノ官職ハ初メニ之ヲ失フ者ナレハ刑ノ期限已ニ終ルモ再ヒ回

復スルヲナシ又公權停止ハ時トシテ重罪ニモ及フヲアリ例ヘハ重罪ノ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付セラレタル者ハ其期限間公權ヲ停止スルモノトス又輕罪ニ在テハ主刑後ハ監視ト主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付セラレタル時トテ問ハス其期限間ハ公權ヲ停止スルモノトス

第四十八條 監視

輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ其罪ノ性質ニ因リ法律ニ明文アル時ニ非サレハ監視ヲ附加スルヲナク且必ス主刑ト共ニ宣告スルヲ要スルモノトス(刑法第三十八條)輕罪ニシテ監視ヲ附加スルハ皇室ニ對スル罪、國事ニ關スル罪、其他貨幣偽造、變造ニ關スル罪、又ハ強盜、盜詐、欺取財ノ如キ者トス

第四十九條

罰金ノ宣告ヲ受ケ限内納完セサルニ因リ禁錮ニ換ヘタル者ヲ監視ニ付スル時ハ其禁錮ノ終リタル日ヨリ監視ノ起算ヲ爲スニ非スシテ禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限内ニ算入スルモノトス(刑法附則第三十五條)

第五十條

監視刑執行ノ方法及ヒ期限起算等ノ法ハ第三十七條ヨリ第四十四條ニ至ルマテノ間ニ詳記シタル如ク輕罪ニ附加スル場合ト雖モ大差ナキヲ以テ彼ノ各條ヲ參觀ス可シ

第五十一條 罰金

罰金ハ刑法第八條ニ掲クルカ如ク主刑ト爲ルヲアリ又

第十條ニ掲クルカ如ク附加刑ト爲ルヲアリ而シテ附加刑ト爲ル時ハ必ス其宣告アルヲ要スル者ナリ其他此刑ニ付テハ主刑タル時ト異ナル所ヲキヲ以テ詳記セス
第三十條第三十一條ヲ參看ス可シ

第五十二條 沒收

沒收ノ法ハ重罪ノ附加刑ノ時ト相同シキニ因リ重罪附加刑中沒收ノ條即チ第四十五條ヲ參看スヘシ

第七節 違警罪附加刑ノ處分

第五十三條 沒收

違警罪ニ於テハ沒收ノ外附加刑ト稱スヘキモノナシ而シテ沒收ノ法ハ重罪附加刑ノ沒收ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ第四十五條ヲ參看スヘシ

第八節 徵償處分

第五十四條

一旦公訴ヲ受ケタル者ハ其結局刑ニ處ヒラル、モ又ハ無罪ニ歸シ或ハ放免セララル、モ苟モ此ニ事實アラハ其被害者ニ對シ請求セララル、所ノ贓物ヲ還給シ損害ノ賠償ヲ爲サ、ル可カラス(刑法第四十六條第四)故ニ被害者ニ於テハ被告ノ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受クルヲアルモ尙ホ民法ニ從ヒ損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ求ムルヲ得ルモハトス(治罪法第八條)若シ其罪事ノ數人共犯ナル時ハ裁判費用贓物ノ還給及ヒ損害ノ賠償ヲ爲スタメ共犯人タル者總テ連帶シテ其責ニ任スヘキ者トス(刑法第七條第四)

第五十五條

刑法第四十八條ノ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得ト謂フ者ハ刑事裁判所ニ私訴ヲ裁判ス可キノ權限ヲ與ヘタルナリ蓋是レ實際ノ便宜ヲ圖ルノ旨意ニシテ治罪法第四條ノ私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲ストナ得トアルノ文詞ト彼此照應ヲ爲スモノトス而シテ治罪法ニ於テ刑事裁判所ニ訴フルト民事裁判所ニ訴フルトハ一ニ被害者ノ擇フ所ニ任スルカ故ニ刑法ニ於テモ亦特ニ請求ニ因リノ文字ヲ置キ刑事裁判所ノ審判權ヲ定メタリ故ニ被害者ニ於テ請求ヲ爲サル時ハ審判ヲ爲スヲ得サルナリ唯贓物犯人ノ手ニ存在スル時ニ被害者ノ請求ヲ待タス直チ

ニ還付スルモノナリ

第五十六條

刑法第四十五條ニ刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ於テ負擔ス可キ旨ヲ定メ治罪法第三百七條ニ依レハ其第一項ニ於テ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ擔當ス可キノ言渡ヲ爲スヘシトアリ又其第二項ニ於テ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴裁判費用ハ官ニテ之ヲ擔當ス可シトアリ以上ノ文詞各々同シカラス刑法ハ刑事ノ裁判費用ト謂ヒ治罪法ハ公訴ノ裁判費用ト謂フ故ニ二者互ニ相異ナリトノ説ヲ爲ス者アリト雖モ刑事ノ裁判費用ハ即チ公訴ノ裁判費用公訴裁判費用

第五十七條

ハ即チ刑事ノ裁判費用ニシテ彼此相異ナルノ理ナシ
刑事ノ裁判費用トナル可キ者ハ豫審又ハ公判ニ付呼出シタル証人醫師鑑定人通事人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ証人日稼ヲ以テ生業ト爲ス者ニシテ治罪法第九十條ニ從ヒ日稼高二等シキ償金ヲ要メ之ヲ給スル時ノ償金又ハ解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ニシテ日當ノ外別ニ給與スル金圓ニ在リトス而シテ日當ハ五拾錢旅費ハ一里ニ付拾錢止宿料ハ一宿ヲ廿五錢トナシ住居三里以外ノ地ニ在ル者ニハ往復ノ旅費ヲ給與シ若シ呼出ノ地ニ滞在スル時ハ日當並ニ止宿料ヲ給與ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅

費ト止宿料ヲ給スルヲナシ又證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ給與スルヲナシ（治罪法第九條及ヒ刑法附則第四十八條）以上皆刑事ノ裁判入費ニシテ被告人ノ負擔スヘキ旨言渡ヲ受ケタル時ハ其財産ニ及フ者トス故ニ治罪法第三百七條ニ從ヒ己ニ言渡ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ死去スル時ハ其相續人ヨリ徵收スルモノトス（刑法附則第五十三條）

第五十八條

贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ其請求ヲ待タス直チニ之ヲ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求アルニ因リ始メテ還給セシムル者トス（刑法附則第五）然レモ他人ノ公商ニ由リ買取シタル場合ニ於

テハ其賣渡シタル公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ其買取シタル原價ヲ償フニ非サレハ還給セシムルヲ得ス若シ他人ノ公商ニ由ラスシテ買取シタル場合ニ於テハ被害者ニ對スル還給ヲ拒ムヲ得ス但其自己ノ買取セシ賣主ニ對シテ轉償ヲ求ムルヲ得ヘシ（刑法附則第五）又贓物ヲ受ケ或ハ典物トシテ受取タル者其贓物ノ現存スル時ハ被害者ニ對スル還給ヲ拒ムヲ得ス唯其典主ニ對シテ轉償ヲ求メ得ヘキノミ（刑法附則第六）又贓物ヲ他物ト交換スト雖モ現存スル時ハ其公商ニ由ルト否トチ區別シ公商ニ由リタル物品ハ被害者ヨリ原價ヲ償フニ非サレハ還給セシムルヲ得ス公商ニ由ラサル者ハ所持者ニ於テ還給ヲ拒ムヲ得ス但其交付セシ者ニ對シ轉償ヲ求

第五十九條

ムルヲ得(刑法附則第五十七條)若シ贓物ヲ己ニ費用セシ時又ハ己ニ讓別ス可カラサル時或ハ其所在ノ知レザル時ハ被害者ニ於テ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ヘシ(刑法附則第五十八條)

治罪法第二條ニ曰ク私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスル者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬スト此法文ニ依レハ私訴ヲ爲スノ權ハ被害者ノ所有ニシテ隨意ニ之ヲ行フヲ得ヘシ又刑法附則第五十九條ニ依レハ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラスト果シテ然ラハ失火ヲ除クノ外一切ノ犯罪ハ皆私訴ヲ爲スヲ得ヘシ

第六十條

贓物ノ還給、損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求シ又ハ別ニ民事裁判所ニ請求スルヲ得ヘシト雖モ(治罪法第四條)刑事裁判所ニ於テ既ニ其審判ヲ終リタル時ハ民事裁判所ニ訴フルニ非サレハ請求スルヲ得ス(刑法附則第六十條)而シテ刑事裁判所ニ請求ヲ爲ス時ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシ民事裁判所ニ請求ヲ爲ス時ハ通常民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ(刑法附則第六十一條)若シ其求メテ受ケタル者還給、賠償ノ宣告ヲ受ケ尙ホ還給、賠償ヲ爲サレル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得ヘシ(刑法附則第二條)又犯人死去スル時ハ被害者ヨリ其相續人ニ對シテ還給、賠償ヲ求ム

ルヲ得ヘシ

第九節 刑期計算

第六十一條

刑期ヲ算スルニ三アリ一ニ日、二ニ月、三ニ年トス日ト稱スル者ハ二十四時ヲ以テシ月ト稱スル者ハ三十日ヲ以テシ年ト稱スル者ハ曆ニ從フ故ニ日ト月トハ常ニ一定スト雖モ年ト稱スル者ハ平年ト閏年トニ由リ自ラ一日ノ差ヲ生ス可シ而シテ刑法第四十九條第二項ニ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セスト云フハ其第一項ノ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テスト云フノ原則ニ違戾シ一日ノ拘留ニ處スルカ如キ或ハ緩カニ十二三時ニシテ放免スルコトアルニ至ル

ヘシトノ疑ヲ生スル者アリト雖モ第二項ノ初日ナル文字ハ二日以上ノ刑期アル時ニ用フヘキ者ニシテ一日ノ拘留ノ如キハ止タ一日ノミナルニ因リ之ヲ稱シテ初日ト謂フノ理ナシ故ニ一日ノ拘留ニ處スル者ハ第一項ニ從ヒ二十四時間留置ス可シ

第六十二條

刑期ハ刑名ヲ宣告シタル日ヨリ起算ス若シ宣告ヲ受ケ故障控訴又ハ上告ヲ爲シタル者ハ其當ト不當トニ因リ起算ノ點ヲ異ニス刑法第五十一條ニ曰ク一、犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス、二、檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前

判宣告ノ日ヨリ起算ス三、上訴中保釋ヲ得又ハ責付セハ
レタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得スト今刑期
ヲ刑名宣告ノ日ヨリ計算スルハ誠ニ被告人ノ利益ナリ
然レト違警罪ノ拘留三日以下ノ宣告ヲ爲シタル時ノ如
キ其裁判ノ確定スルハ三日ノ後ニ在ルヲ以テ裁判確定
スレハ即チ拘留ノ刑期已ニ盡ルカ故ニ刑名宣告ノ名ア
リテ竟ニ之ヲ執行スルノ期ナカル可シ故ニ刑法第五十
一條ノ刑名宣告ノ文字ヲ以テ誤ト爲ス者アリト雖モ畢
竟善ク法意ヲ解セサセルノ過ト謂フ可シ蓋シ此條文ノ
第一項第二項ニ於テハ其意ヲ見ル可カラサルモ第三項
以上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑
期ニ算入スルヲ得ストアルハ即チ此ノ疑點ヲ決スル

ノ例証タル可シ何トナレハ保釋責付ノ者ハ未タ其身体
ノ自由ヲ停止セラレシニ非ス故ニ刑ノ宣告ヲ受クルモ
唯其名ノミニシテ毫モ身体ニ影響ナキヲ以テ之ヲ刑期
ニ算入セサルナリ第一項第二項ノ如キハ共ニ身体ノ自
由ヲ停止セラル、場合ヲ謂フ者ニシテ第三項ハ其例外
ヲ示セルナリ今違警罪ノ拘留三日以下ノ宣告ヲ受ケタ
ル者ハ裁判ノ確定ニ至ルマテ其身体ノ自由ヲ失フコト
シ故ニ之ヲ刑期中ニ算入セサルハ當然ナリトス又明治
十四年(九月二十日)第四十四號ノ布告ヲ以テ違警罪ノ裁
判言渡ニ付テハ上訴ヲ許サ、ル旨ヲ定メタルニ因リ此
布告ノ刪除アルマテハ違警罪ノ裁判ハ始審即チ終審タ
ルノミナラス上告ヲモ爲ス可カラサル者ナルヲ以テ其

宣告アルヤ直チニ確定スヘシ然レハ刑名宣告ノ日ヨリ
刑期ヲ起算スルモ其不可ナルヲ見サルナリ

第六十三條

已ニ刑ノ宣告ヲ受クレハ其裁判未タ確定セス又未タ其
執行ヲ爲サスト雖モ若シ逃走スル時ハ刑期中逃走シタ
ル者ナルヲ以テ其逃走中ノ日數ハ之ヲ除キ前後刑ヲ受
ケタル日ノミヲ計算ス(刑法第五十二條)而シテ逃走シタル當日
ハ時間ノ多少ヲ問ハス刑期ニ計算セサル者トス然レヒ
再ヒ捕ニ就キタル當日ハ其時間ノ多少ニ拘ハラズ之ヲ
一日トシテ刑期ニ算入ス可シ

第十節 假出獄

第六十四條

重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者若シ能ク獄則チ謹守シ
悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政
上ノ處分ヲ以テ假リニ出獄ヲ許スヲ得ヘシ(刑法第五十三條)
而シテ此ニ所謂刑期トハ犯人ノ現ニ處セラレタル刑期
ニシテ法ノ規定スル期限ニ非ス故ニ重禁錮ノ期限八十
一日以上五年以下ナリト雖モ此レ法ノ定ムル所ニシテ
此ニ所謂刑期ニ非ス此ニ所謂刑期ハ二年或ハ三年或ハ
四年等ノ如ク皆犯人ノ言渡ヲ受ケタル期限ナリ然レ無
期徒刑ノ囚ハ宣告ノ際單ニ無期徒刑ト謂フノミニシテ
元來期限ナキ者ナリ故ニ十五年ヲ以テ他ノ諸刑ノ四分
ノ三ニ比シ以テ假出獄ヲ許ス者トス而シテ流刑ノ囚ハ
刑法第二十一條ニ規定スル所ニ因リ五年ヲ經過スルノ

後行政上ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免ゼラルハノ恩典アルヲ以テ既ニ假出獄ヲ得タル者ニ比スレハ更ニ寛ナルモノトス故ニ復タ假出獄ノ例ヲ用ユルヲナシ(刑法第六十三條)

第六十五條

重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者既ニ行政處分ヲ以テ假出獄ヲ許サレタル時ハ本刑ノ殘期中特別監視ニ付セラ
ル可シ(刑法第五十五條)而シテ徒刑ノ囚ハ仮令假出獄ヲ得ルモ仍ホ島地ニ居住ヲ爲ス可ク自己ノ家國ニ歸ルヲ得ス(刑法第四十五條)仮出獄ヲ得タル囚人ノ生計方法ニ因リ行政處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ヘシ貸借、賣買、結約、贈與、ヲ爲スヲ得セシムルカ如キノ類ナリ蓋シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者自ラ財産ヲ治メ若シハ職業ヲ營マ

ントスル時ハ警察所ニ申請シテ其許可ヲ受ク可シ(刑法第四十一條)

第六十六條

假出獄ハ刑法第五十三條ニ因テ許ス可キ者ニシテ之ヲ許ス時ハ其獄司ヨリ犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假リニ出獄ヲ許サレノヲ内務司法兩卿ニ上申シテ其許可ヲ受ク可キ者トス而シテ此兩卿ノ許可アリシニ因リ犯人ニ假出獄ヲ許ス時ハ其証票ヲ犯人ニ下付スルナリ其証票ニハ左ノ數件ヲ記載スヘシ、一、本人ノ屬籍、氏名年齢住所罪名及ヒ處刑ノ年月日、二、殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事、三、假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事、四、假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄

ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事又其假出獄ヲ許ス可キ者ニハ豫シメ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日與獄ヨリ假出獄証票ノ謄本ヲ添へ犯人ヲ其最近ノ警察署ニ護送シ特別監視ヲ執行セシムルモノトス（刑法附則第三十九條第四十條第四十一條第四十二號布告）

第六十七條 特別監視

特別監視ニ付スル者ハ通常監視ニ付スルノ手續ト略々相同シ其異ナル所ハ左ノ數箇ニ在リ、一、毎週一回、所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ表ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ若シ疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ、二、酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スル

ヲ得ス、三、若シ事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ然レ他ノ府縣ニ轉移スルヲ得ス、四、往復一日程ヲ過タル地ニ旅行スルヲ得ス又此監視ノ期限中ハ時宜ニ因リ警察署ニ於テ其家宅ニ臨檢スルヲ得ヘシ（刑法附則第四十三條第四十四條第四十五條）

第六十八條

假出獄ヲ許サレタル者特別監視ノ規則ヲ守リテ刑期満限ノ日ニ至レハ假出獄ノ証票ヲ警察署ニ納還スヘシ而シテ警察署ハ其証票ヲ出シタル所ノ獄司ニ遞送スヘシ若シ其犯人主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ者ナル時ハ警察署ニ於テ刑法附則第二章ニ記載スル所ノ例ニ從テ處分ス可キ者トス若シ假出獄ヲ許ス可キ犯人ニシテ住所

ナキカ或ハ引取人ナキ時ハ其期限間懲役場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ自ラ歸着スル資力ナキ者モ亦同シトス

第六十九條

假出獄ヲ許サレタル者其期限中重罪又ハ輕罪ヲ犯ス時ハ直チニ出獄ヲ停止シ其出獄中ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサルモノトス(刑法第五十六條第五)蓋シ假出獄ノ犯人ニ在テハ輕罪ヲ犯シ裁判ノ時ニ當テ減輕セラレテ違警罪ノ刑ニ處セラレト雖モ其犯ス所既ニ輕罪タルニ因リ尙ホ假出獄ノ效ヲ失フ者トス而シテ出獄ノ停止ヲ爲スハ裁判ノ確定シタル時ヨリス以上ハ一般ノ法則ニシテ例外ナカル可キ者ナリト雖モ北海道樺戶集治監ノ囚徒ニ付テハ

實際便宜上ヨリ定メタル一ノ例外法アリ故ニ此集治監ノ囚人ニシテ假出獄中輕罪以下ノ罪ヲ犯ス時ハ通常治罪ノ手續ヲ用ヒス司獄官吏ニ於テ直チニ裁判ヲ爲シ且其治罪ノ手續ハ便宜ノ方法ヲ以テスルナリ然レモ重罪ヲ犯シタル者ハ其管轄ナル重罪裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スモノトス(明治十五年三月三日第十六號公布)

第十一節 期滿免除

第七十條 主刑ノ期滿免除

刑ノ宣告ヲ受ケ其裁判ノ已ニ確定シタル後執行ヲ遵レタル者ハ法律ニ定メタル期限ヲ輕過スルニ因テ期滿免除ヲ得(刑法第五十八條第五)其期限ハ左ノ如シ死刑ハ三十年、無期徒刑、無期流刑ハ二十五年、有期徒刑、有期流刑ハ二十年、

重懲役、重禁錮ハ十五年、輕懲役、輕禁錮ハ十年、重禁錮及ヒ罰金ハ七年拘留、科料ハ一年トス(刑法第五十條)

第七十一條 附加刑ノ期滿免除

附加刑ハ主刑ノ如ク一般ニ期滿免除ヲ得ヘキ者ニ非ス
剝奪公權、停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ヘカラス然レモ刑法第三十二條ニ謂フ所ノ停止公權ハ禁錮ノ刑ニ附加シ特ニ刑期中ノ者ナルヲ以テ主刑タル禁錮ノ期滿免除ヲ得レハ此停止公權モ亦自カラ消滅スル者トス又禁治産ノ如キモ亦刑期中ノ附加刑ナルヲ以テ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ヘシ刑法第三十五條ニ曰ク其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁スト主刑ノ終ルハ執行ヲ受ケ終ルノミヲ謂フニ非ス刑ノ消滅モ亦主刑ノ終ル

モノトス又附加刑タル罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ヘシ又沒收ハ法律ニ於テ所有ヲ禁止シタル物件ノ外五年ニシテ期滿免除ヲ得ヘシ(刑法第六十條)

第七十二條 期滿免除ノ起算

期滿免除ノ期限ヲ起算スルハ刑ノ性質ニ因テ異ナル所アリ主刑ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヲ以テ起算ノ點トス若シ捕ニ就キタル後再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヲ以テ起算ノ點トス蓋シ刑ノ確定以前即チ上訴ノ期限内或ハ上訴ヲ爲シ其判決以前ニ在テ逃走シタル時ハ刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ非サルカ故ニ此ノ如キ者ハ尙ホ公訴ノ期滿免除ヲ得ヘキナリ然レモ關席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其裁判ノ確定ス可キノ期ナキカ故

言渡ノ日ヲ以テ直ニ起算ノ點トス(刑法第六十一條)又罰金ハ附加ノ時ト主刑ノ時トニ因リ起算ノ點ヲ異ニス若シ主刑トノ宣告シタル時ハ刑法第廿七條ニ記スル如ク裁判[○]確定ノ日ヨリ一月内ニ納完スヘキ者ナルヲ以テ裁判確定ノ日ハ未タ納完ス可キ期限ノ最終ニ非ス故ニ三十日ヲ過キタル其翌日ヲ以テ起算ノ點トナサ、ル可カラス然レモ附加刑トシテ宣告シタル時ハ主刑ノ確定スル日ヲ以テ直ニ起算ノ點トス故ニ主刑ノ期滿免除ヲ得レハ附加刑モ亦自カラ期滿免除ヲ得ヘシ

第七十三條

刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ執行スルコトヲ得サルハ刑法第五十一條ノ規定スル所ニシ其執行ヲ遺ルニ

非サレハ刑ノ期滿免除ヲ以テ論ス可カラス然レハ裁判確定ノ日ヲ記臆スルヲ須要トス因テ茲ニ之ヲ掲グルニ違警罪ニ付テハ控訴ノ期限ヲ三日トシ(治罪法第三百三十二條)輕罪ニ付テハ五日トス(治罪法第九條)又重罪ニ付テハ上告ノ期限ヲ三日トナシ大審院ノ裁判言渡ハ三日間其執行ヲ停止ス(治罪法第四百十六條)以上ノ期限間ハ執行ニ着手セサルニ因リ若シ此日限内ニ上訴ノ申立書ヲ差出サ、ル時ハ其裁判言渡ヲ確定ノ者トス故ニ刑ノ期滿免除ハ其翌日ヨリ起算スルナリ

第七十四條

刑法第六十二條ニ曰ク刑ノ執行ヲ遺レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免

除テ起算スト此令狀ハ通常始審裁判所檢事ヨリ發スル者トス然レモ始審裁判所々在外ノ地ニ在テハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ヨリ發スル者トス(明治十四年十月十七日同省丙第十四號同十五年四月)蓋シ此令狀ハ其犯人ヲ緝捕スル爲メニ發スル者ト雖モ亦此ニ由テ既ニ經過シタル期限ヲ中斷セラレ、者トス而シテ一犯人ニ對シ令狀ヲ發スルヲ數回ニ及フ時ハ其最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ起算スル者トス令狀ハ典獄ノ報知書ニ依リ逃走シタル囚徒ノ本籍氏名人相等ヲ詳記シ管轄地内ハ之ヲ警察署又ハ其分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシメ管轄地外ハ之ヲ始審裁判所ノ檢事ニ囑託スルヲ得ヘシ其囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以

テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ其分署ニ配付シ以テ逮捕ノ處分ヲ爲サシムル者トス而シテ司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託シタル檢事ニ通知シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スヘキモノトス蓋シ典獄ノ報知書ニ依リ檢事ノ發スル逮捕狀ハ其管轄地ノ内外ニ拘ハラス急遽ノ際巡查ヲシテ帶行セシムル時ニ限リ囚人ノ人相ヲ記セサルモ妨ケナカル可シ(明治十五年司法省丙第十六號ノ達)

第十二節 復權

第七十五條

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年

ノ後又主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付セラレシ
 日ヨリ五年ノ後（刑法第六十三條）司法卿ニ復權願ヲ爲スヲ得
 ヘシ其願書ハ本人又ハ其代人ニ於テ署名捺印ヲ爲シ現
 ニ本人ノ住居スル地ノ始審裁判所檢事ニ差出シ檢事ハ
 之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出シ檢事長ヨリ之ヲ司法卿
 ニ差出シ司法卿ヨリ之ヲ上奏スル者トス（治罪法第四百
 四十七條ヨリ第
 四百七十四
 條ニ至ル）

第七十六條

公權ヲ復スルハ本人ヨリ復權願ヲ爲スヲ常トスレモ大
 赦特赦ノ如キハ本人ノ願ニ因ラサル者トス然レモ此赦
 モ亦區別アリ大赦ニ因テ免罪ヲ得レハ復權ハ記載ナキ
 モ當然復權ヲ得ヘク特赦ニ因テ免罪ヲ得タル時ハ其赦

狀中復權ハ記載アルニ非サレハ復權ヲ得サル者トス而
 シテ大赦ト特赦トヲ問ハス己ニ復權ヲ得レハ監視ハ自
 カラ免カレタル者トス又復權願ニ關スル手續ハ治罪法
 第四百七十條ヨリ第四百七十六條マテニ規定シ特赦ニ
 關スル手續ハ同法第四百七十七條ヨリ第四百八十條マ
 テニ規定セリ而シテ大赦特赦ハ固ヨリ論ナク復權モ亦
 勅裁ニアラサレハ之ヲ得ヘカラサル者トス

第三章 加減例

第一節 重罪刑ノ加減

第七十七條

重罪ノ刑ハ常事犯ニ用ユル者ト國事犯ニ用ユル者トノ
 二種ニ分ツ常事犯ニ用ユル者ハ死刑、無期徒刑、有期徒刑、

重懲役、輕懲役ノ五箇トシ國事犯ニ用ユル者ハ死刑、無期
 流刑、有期流刑、重禁獄、輕禁獄ノ五箇トス而シテ加減ノ法
 ハ一等毎ニ刑ノ等級ヲ異ニスル者トス故ニ死刑ヨリ一
 等ヲ減スレハ無期徒刑トナリ無期徒刑ヨリ一等ヲ減ス
 レハ有期徒刑トナリ有期徒刑ヨリ一等ヲ減スレハ重懲
 役トナリ重懲役ヨリ一等ヲ減スレハ輕懲役トナル可シ
 其加重モ亦此順序ヲ逐フテ一級ヲ進ムルナリ然レモ一
 ノ制限アリテ無期徒刑ヨリ加テ死刑ニ入ルコトヲ得ス以
 上ノ方法ハ國事犯ニ用ユル刑ニ於ルモ亦同一ナリトス
 (刑法第六十七條)而シテ輕懲役ヨリ一等ヲ減スル時ハ直チ
 ニ十一日以上五年以下ノ重禁錮トナサス二年以上五年
 以下ト爲スヲ以テ一等トス其輕禁獄ヲ減スルモ亦然リ

第二節 輕罪刑ノ加減

第七十八條

蓋シ輕重ノ權度ヲ保持スルガ爲メナリ
 輕罪ノ刑ハ重罪ノ如ク一等ノ加減ニ因テ直チニ其刑名
 ヲ異ニスルトナシ又重罪ノ如ク國事ニ關スル犯罪ニノ
 ミ用コトキソ刑ナシ而シテ加減ノ法ハ總則ニ記載シタ
 ル十一日以上五年以下ト爲スノ期限ニ由ラスシテ各本
 條ニ記載シタル刑期金額ニ由リ之ヲ四分シ其一分ヲ以
 テ一等ト爲ス故ニ一等ヲ減スル時ハ先ツ上極ト下極ト
 ヲ各四分シ其一分ヲ減シタル範圍内ニ於テ處分ス可シ
 四月以上四年以下ノ刑期ノ如キ一等ヲ減セントスレハ
 其上極ナル四年ヲ四分シ先ツ上極四年ノ四分ノ一即チ

一年ヲ減シテ三年ト爲シ又其下極ノ四月ヲ四分シ四月
ノ四分ノ一即チ一月ヲ減シテ三月ト爲シ三月以上三年
以下ノ範圍内ニ於テ適當ナル處ニ其刑ヲ定ムルナリ

第七十九條

輕罪ノ刑モ亦重罪ノ如ク加重ニ一ノ制限アリテ重罪ニ
入ルコトヲ得ス然レモ各本條ニ記載スル長期ニ該リ尙ホ
加重ス可キ事由アル時ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得ヘシ
トス(刑法第七十條)若シ禁錮ヲ減シ盡シタル時ハ違警罪ニ入り
拘留ニ處シ罰金ヲ減シ盡シタル時モ亦違警罪ニ入り科
料ニ處ス又禁錮罰金ヲ減シ來テ其短期十日以下トナリ
寡數一圓九十五錢以下トナル時ハ其中間ニ在ル十一日
二圓ヲ以テ疆界トシ輕罪刑ニ止マリテ禁錮罰金ニ處

スルヲ得ヘク又違警罪刑ニ入りテ拘留科料ニ處スルヲ
得ヘシ若シ禁錮ニ附加ノ罰金アリテ共ニ減シ來リテ已
ニ盡ル時ハ唯禁錮ノミ下テ違警罪ニ入ルヲ得ヘク附加
ノ罰金ハ下テ違警罪ニ入り科料トナルヲ得ス何トナレ
ハ罰金ハ附加刑トナルコトアルモ科料ハ附加刑トナルコ
トケレハナリ故ニ刑法第七十一條ノ罰金ハ主刑タル時
ヲ謂フ者トス若シ附加刑ヲテハ決シテ科料トナルコトナ
カルヘシ但附加ノ罰金ト雖モ加減ノ方法ハ主刑ト同シ
ク四分ノ一ヲ以テ一等ト爲スモノナリ(刑法第七十條)又禁錮
ヲ加減スルニ因リ其期限ニ寡數ヲ生シテ一日ニ滿タサ
ル時ハ之ヲ除棄ス

第八十條

拘留、科料ノ加減法ハ禁錮罰金ト同シク四分ノ一ヲ加減
スルチ一等トナス而シテ加重ニ因テ輕罪ノ刑ニ入ル
チ得サルハ猶ホ輕罪ノ刑ノ加ハテ重罪ノ刑ニ入ル
チ得サルガ如シ然レ十日ノ極度ニ處スルモ尙ホ足
テサレ
時ハ加ヘテ十二日ニ至ルチ得ヘク一圓九十五錢ニシテ
尙ホ足ラサル時ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルチ得ヘシ而
シテ之ヲ減スルニ亦一ノ制限アリテ拘留ハ一日以下ニ
降ス
拘留チ加減シ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサル者
レハ之ヲ除棄ス

第四章 不論罪及七減輕

第一節 一般ノ不論罪

第八十二條 不論罪ノ解義

不論罪ハ法律ニ定メタル重罪又ハ輕罪トナル可キ所爲
アル者ニシテ其所爲ノ制裁ヲ負ハサルヲ謂フ蓋シ其所
爲ニ因テ生シタル成迹ヲ見レハ即一箇ノ犯罪タリト雖
モ其心裏ニ於テ惡意ヲ含マサルカ故ニ犯罪成立ノ元素
ニ欠缺アリトス元素トハ故意自由智覺ノ三是レナリ而
シテ刑法第七十五條ヨリ第八十三條マテニ記スル所ノ
者ハ一般ノ不論罪トス若シ夫レ理論ヲ以テ之ヲ分拆ス
レハ此中亦自ラ特別ナル者アルヘシト雖モ刑法ノ區別
スル所ヲ以テスレハ總則中ニ記スル者ハ皆之チ一般ノ
不論罪ト爲サ、ル可カラス

第八十二條 強制

刑法第七十五條ニ曰ク抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其
 意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス天災又ハ意外ノ變ニ
 因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體
 ナ防衛スルニ出タル所爲亦同シト此條ノ強制ハ法ニ明
 言スルヲナシト雖モ自ラ二箇ノ區別アル者トス自然ノ
 強制及ヒ人爲ノ強制是ナリ第七十五條ノ第一項ハ人爲
 ノ強制ヲ謂ヒ其第二項ハ自然ノ強制ヲ謂フ人爲ノ強制
 ハ暴行ヲ以テ強制セラレ力ノ抗拒ス可キナク之ニ從フ
 者ト脅嚇威迫セラレ之ヲ禦キ得スシテ從フ者トノ二種
 アリ自然ノ強制ハ天災又ハ意外ノ變ニシテ一人一己ノ
 力能ク之ヲ防キ止ムル所ニ非サル者乃チ地震、洪水、火災、
 戦争、難船等ノ場合はナリ蓋シ此第七十五條ハ犯罪ノ元

素中ノ自由ナキ者トス法文ニ其意ニ非サル所爲ト
 アルモ其實ハ爲スト爲サルトノ自由ナキナリ何トナ
 レハ自ラ爲スノ意ナケレハ則チ爲スノ理ナシ然ルニ之
 チ爲ス者ハ畢竟其自由アラサルカ爲メナリ

第八十三條

刑法第七十六條ノ所謂本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ
 以テ爲ス者ハ是亦前條ト同シク犯罪ノ元素タル自由ア
 ラサル者トス然リ而シテ此條文ニ付テハ本屬長官ト命
 令ト職務トハ具備セサルヲ得サルノ要件ナリ故ニ本屬
 長官ノ命令アリト雖モ其職務ニ非サル時ハ決シテ此條
 ノ不論罪ト爲ス可カラサルナリ蓋シ職務ノ文字中ニハ
 法律ニ從フノ意ヲ含ミ又命令ノ文字中ニハ正當ノ威權

ハル者ノ命令ナル意ヲ含ム可シ故ニ本廳長官ノ命令ニシテ若シ違法ノ命令ナル可シト思惟スルモ其權勢威力ニ因リ已ムヲ得ス之ニ從ヒタル時ハ刑法第七十五條ノ場合ニ入ル可シ何トナレハ長官ノ命令ニシテ正當ナラストスレハ之ヲ受クル者ニ在テ職務ト謂フヲ得サレハナリ法律ニ從テ之ヲ爲スカ故ニ職務ト謂フ法律ハ違法ノ命令ニ從フ可キヲ命スルヲナシ是故ニ正當ノ命令ヲ受ケ之ニ從ヒタルニ非サレハ職務ヲ以テ爲シタル者ト爲スヲ得サルナリ

第八十四條

又犯罪ノ自由キヲ付テハ尙ホ說述ヲ要スルヲアリ
 刑法第七十五條ニ記スル所ノ強制ハ暴行ト脅迫トヲ合

ムト雖モ共ニ其人ノ身分、年齢及ヒ男女、景狀ニ從テ各差異アル可シ就中脅迫ノ如キハ最モ此等ノ事ニ注意スルヲ要ス同一ノ暴行ト雖モ其性勇剛ナル者ハ之ヲ受ケテ少シモ其心ヲ動カス所ナキモ怯懦ナル者或ハ婦女老人若シハ幼年者ノ如キハ之ヲ受ケテ大ニ畏懼ノ念ヲ生スルヲアリ故ニ甲ニ對シテ暴行ノ強制トナルヲアルモ乙ニ對シテハ強制トナラサルヲアリトス又時トシテハ一箇ノ強制ニシテ分ツ可キ場合アリ例ヘハ甲乙ニ對シテ爲シタル暴行又ハ脅迫ノ甲者ノ爲メニハ強制トナリシモ乙者ノ爲メニ強制トナラサリシヲアル可シハ脅迫ハ之ヲ二種ニ區別セサル可カラス第一其身体生命ニ害ヲ加ヘント脅迫スル者第二其財産ニ害ヲ加ヘント脅迫ス

ル者はナリ而シテ此第一種ノ者ハ之ヲ不論罪ノ原因ト
ナスヲ得ケレド第二種ノ者ハ不論罪ノ原因タル強制ト
爲スヲ得ヘカラス但シ裁判官ニ於テ酌量減輕ヲ爲スノ
原因ト爲ル可シ以上ノ強制ト爲リタルト否トヲ區別ス
ルハ法律ニ於テ毫モ其標準ヲ示ス所ナシ故ニ之ヲ判定
スルハ一ニ裁判官ニ信任スル者トス

第八十五條

不論罪ノ原因トナル可キ強制ハ其起因ハ外部ヨリスル
者ナルヲ要ス若シ其原因ハ内部ヨリ生スル者ナル時ハ
如何ナル景狀アルモ決シテ抗拒ス可カラサル強制ト爲
サ、ルナリ故ニ飢餓ニ逼リ殆ント死ニ瀕スルノ場合ニ
當テ人ノ物ヲ攫食セシ如キモ其原因ノ單ニ貧困窮迫ニ

出ル時ハ不論罪ノ強制ト爲サ、ルナリ又憤怨激怒ノ情
感ニ逼迫セラレシ者モ亦不論罪ノ原因ト爲スヲ得サ
ルナリ

第八十六條

刑法ニ掲クル犯罪ニハ大抵故意アルヲ要スル者ナリ
然レモ唯其形迹ヲ顯ハス而已ヲ以テ犯罪ト爲ス者アリ
所謂有意犯、無意犯ノ區別ニ從テ異ナルナリ刑法第七十
七條ニ曰ク「罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法
律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ス」ト此第
一ノ罪ヲ犯スノ意ナキ者ヲ罰セサルハ有意犯ノ場合ニ
ノ犯罪ヲ組成スル一元素タル故意ヲ欠クカ故ナリ蓋シ
此場合タル犯罪ト爲ル可キ所爲ハ既ニ充分ノ成述アリ

ト雖モ有意ヲ要スル罪ニシテ其意アラサルナリ然レモ第二ノ法律規則ニ於テ別ニ成迹ノミヲ以テ罪ト定メタル者ハ第一ノ例外トシテ之ヲ罰スルカ故ニ無意ヲ以テ不^レ論罪ノ原因ト爲ス^ルヲ得サルナリ又該條第二項ノ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ是亦罪ヲ犯スノ故意ナキヲ以テ罪トシテ論スル^ルヲ得ス故ニ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラサルハ不^レ論罪ノ原因ト爲ス可キナリ

第八十七條

罪本重カル可キニ其犯時ニ在テ其重キ所以ヲ知ラサリシ者ハ其重キ罪ヲ以テ論スル^ルヲナシ（刑法第七十條第三項）何トナレハ罪ヲ犯スノ意アリト雖モ重カル可キ所以ヲ知ラサレハ即チ重カル可キ罪ヲ犯スハ意ナケレハナリ（刑法第

七十七條第三項ハ犯罪組成ノ元素タル故意チ欠ク者ナリト雖モ全ク其罪ヲ不^レ論ニ置カス唯其犯スノ意アリシ所ノ輕キ罪ヲ以テ罰スルナリ故ニ其不^レ論罪トスル所ノ者ハ故意アラサリシ重キ罪ノミニシテ該項ハ不^レ論罪ノ法意チ適用セシニ過キサルナリ又罪ヲ犯スハ意ナキモ此ヲ以テ不^レ論罪ノ原因ト爲サ^ルル^ルアリ法律規則ヲ知ラスシテ犯シタル時是ナリ蓋シ法律規則アル^ルヲ知ラサル者ハ其法律規則ヲ犯スノ意ナキヤ明カナリ然レモ法律規則ヲ知ル可キハ國民タル者ノ義務ナルヲ以テ之ヲ知ラサレハ則チ知ラサル者ノ過失ナリ況ンヤ其自ラ良心ニ快カラサルヲ忍ビ強テ惡事ヲ爲スニ於テハ決シテ意ナキノ所爲ト謂フ可カラス既ニ意アラハ則チ其意

ヲ罰シテ可ナリ唯裁判官ニ於テ酌量減輕ヲ爲スノ原因ト爲ルヲアル可キノミ

第八十八條 知覺ノ欠缺

犯罪成立ノ元素タル知覺ノ欠缺ハ不論罪ノ原因トナル可シ故ニ白痴、瘋癲ノ如キハ其所爲ヲ罪トシテ論スルナシ刑法第七十八條ニ曰ク「罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス」今痴呆ノ者ハ其所爲ノ是ナルヤ非ナルヤヲ辨スルノ識ナキカ故ニ此法文ノ知覺ナキ者ノ内ニ入ル可キハ疑フヘキニ非ス然レモ瘋癲ノ如キハ精神ノ喪失ニ非スシテ錯亂セシ者ナリ錯亂ハ靜定ト相反スト雖モ未タ全ク失ヒタル者ニ非ス故ニ苟モ精神アラハ其瘋癲狂病ノ者タルヲ論セス

此法文ノ中ニ入ラリルカ如シ何トナレハ未タ嘗テ其精神ヲ喪失セシヲアラサレハナリ然レモ此法文ノ精神ト謂フハ己ニ精神錯亂セシ者ヲ指スニ非ス其事ノ是非曲直ヲ識別スル能ハサルニ至リシ者ハ正當ノ精神ヲ失ヒシナリ正シキ靜定ノ精神アラハ必ス能ク其是非曲直ヲ識別ス可キノ理ナリ既ニ正シキ精神アラストセハ即チ是レ精神ヲ喪失セシ者ナリ蓋シ法ノ以テ不論罪トナスハ自ラ其事ノ惡シキヲ知ラサルヲ主トスルナリ故ニ法文ノ是非ヲ辨別セサルノ語ニ注意ス可シ又法文ノ意タル必シモ其原因ヲ定メサルヲ以テ白痴ト瘋癲トヲ限ルモノニ非サルナリ

第八十九條

知覺精神ノ喪失ハ長ク喪失スル者ト一時喪失スル者ト
 ヲ論スルヲナシ法ノ定ムル所ハ罪ヲ犯ス時ナルヲ要
 スルナリ故ニ罪ヲ犯ス當時ニ在テ知覺精神ヲ喪失セシ
 者ハ皆不論罪ノ原因トナル可シ假令罪ヲ犯セシ後瞬間
 ニ於テ回復スルアルモ爲メニ法ノ適用ヲ變スルヲナ
 シ唯其當時ニ在テ知覺精神ヲ喪失センコトヲ証スルハ甚
 タ難キノミ然レモ其証ノ確的ナルコトハ不論罪トスルニ
 最モ必須ナル條件トス

第九十條

以上精神知覺ノ喪失ヲ定ムルハ一ニ裁判官ノ特權ニ在
 リ而シテ知覺アリシコト精神ノ喪失ニアラザリシコトヲ證
 スルハ原告人タル檢察官ノ責任ナリ被告ニ於テハ唯其

當時此ノ如キ所行ヲ爲スノ意アラザリシコトヲ陳言スル
 ヲ以テ足レリトス若シ夫レ知覺精神ヲ常ニ喪失スル者
 ハ本人ニ於テ自ラ其有意無意ヲ陳言スルコトナク又設令
 陳言スルモ固ヨリ依據ス可カラサルカ故ニ原告人タル
 檢察官ニ於テ有的ノ證ヲ舉ク可キ者トス而シテ此ニ一
 ノ至難ナル者アリ醉裡ノ犯罪者はナリ此ノ場合ニ於テ
 ハ精細ニ區別テ爲シ以テ其責任ヲ負ハシムルト否トチ
 決セサル可カラス生、平、酒、ヲ、嗜、ム、者、ニシテ自ラ勇氣ヲ增
 シ犯罪ヲ容易ニスル爲メ故サテニ飲酒シ醉ニ乘シテ罪
 ヲ犯シタル者ニ在テハ固ヨリ罪ヲ犯スノ意アリテ犯シ
 タル者ナレハ決シテ不論罪ノ範圍ニ入ル可カラズ蓋シ
 其事ヲ行フノ現時ニ在テハ當初ノ惡意既ニ消滅シ去リ

復タ一點ノ惡意ヲ存スルナキカ如シト雖モ此ノ如キ者ハ酒ハ爲メ使ハルニ非スシテ自ラ酒ヲ使フカ故ニ決意ノ時ヨリ事後ニ至ルマテ決メ知覺精神ヲ失フナキナリ又平生全ク酒ヲ飲マサル者他人ノ爲メ欺ムカレテ深醉セシカ或ハ其酔フ可キ物料タルヲ知ラスノ酔ヲ致シ爲メニ罪ヲ犯セシ場合ニ在テハ時トメ知覺精神ヲ喪失スルヲアリトス蓋シ醉中ノ犯罪ニ付テハ生平酒ヲ好ム者ナリヤ酒ヲ飲メハ病癖アリヤ又酒ヲ嗜ム平生ノ分量如何酒ニ酔タル程度如何等ヲ詳審セサル可カラス

第九十一條

法文ハ犯罪ノ現時ニ在テ知覺精神ノ喪失ヲ望ムカ故ニ彼ノ睡眠中突然起テ人ヲ害スル如キ或ハ畏懼ハ念ニ堪

ヘス終ニ精神ヲ失フカ如キモ亦必ス此中ニ入レサル可カラス又驚駭ハ甚シキヨリ終ニ精神ノ喪失ヲ致スル者モ亦然リ又瘋癲病ノ如キハ情慾ヨリ生スルト激憤若クハ怨恨悲哀ヨリ生スル者ト雖モ皆此中ニ入ル可キノリ唯伴狂ト否トヲ精査スルヲ要ス可キノミ

第九十二條 幼年者

罪ヲ犯ス現時ニ在テ未タ十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス(刑法第七十九條)又滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別セサル時ハ亦其罪ヲ論セサルナリ(刑法第八十條)第一項罪ヲ犯ス時年齢未タ十二ニ滿タサル者ハ法ニ於テ知覺未タ充分ナラス假令犯罪タル所爲アルモ本人ニ在テハ其事ノ是非善惡ヲ辨識スルヲナシ故ニ其責ヲ受ク

ルノ能力ナキノミナラス之ヲ罰スルモ法ノ目的ヲ達スルヲナシ何トナレハ法ノ必要トスル所ハ犯者ノ自ラ其所爲ノ惡事タルヲ知リテ之ヲ爲セシニ在リ今幼年者ノ如キハ智力不充分ナルヲ以テ法ノ望ミタル元素ヲ意自由具有スル者ニ非ス故ニ之ヲ不論罪ノ原因トスルナ知覺其十二歳以上十六歳ニ滿サル者ニ至テハ十二歳以下ノ者ニ比スレハ較智力ノ備ハリタル所アリト雖モ未ダ充分ト謂フ可カラス故ニ其所爲ノ是非ヲ辨別シタルト否トヲ區別スルナリ其辨別セサル場合ニ於テハ十二歳ニ滿サル者ト毫厘ノ差アルヲ見ス故ニ亦不論罪ノ原因トス蓋シ十二歳以下ニ在テハ總テ辨別ナキ者ト推測シ十二歳以上ニ在テハ檢察官ニ於テ特ニ辨別アリシヲ

第九十三條 瘖啞者

證ス可キ者トシ法ノ推測ニ反證ヲ舉クルヲ認可セリ以上二箇ノ幼者ハ其身分ニ因テ不論罪トスルナリ

瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス(刑法第八條)此瘖啞者ハ生來耳聞ク能ハス口言フ能ハス眼能ク見ルト雖モ人ノ言語談話ヲ解シ得サルヲ謂フ果シテ然ラハ是非ヲ辨識シ善惡ヲ區別スル能ハサルハ亡論ナルヲ以テ設ヒ犯罪タル可キ所爲アルモ只其外形ニ止マリテ罪科ヲ組成ス可キ元素ノ具備セサル者ナリ蓋シ法文單ニ瘖啞者ト之アルニ據レハ育者聾者ハ與カラサルナリ又生來ノ啞ナラスシテ中年或ル事故ニ因リ啞トナリタル者ノ如キモ既ニ是非善惡ヲ辨別スルノ知力アルヲ以テ不論罪

ノ原因トナカ、ルナリ

第九十四條

刑法第七十九條ノ幼年者刑法第八十條一項ノ是非ヲ辨別セザリシ幼年者及ヒ刑法第八十二條ノ瘖啞者等ノ犯罪ハ總テ之ヲ不論罪トナスト雖モ元ト其所爲ノ是非善惡ヲ擇フノ思想ナキカ故ニ再ヒ害事ヲ爲スノ恐アリ故ニ其情狀ニ因リ懲治場ニ留置スルヲ得ヘシ然レモ是處分タル決シテ刑罰ノ性質ヲ有スル者ニ非ス唯再ヒ其事ヲ爲スノ危險ヲ防クニ在ルノミサレハ再犯トナスヲナシ蓋シ十二歳ニ滿サル者ハ滿十六歳マテ之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得ヘク又十二歳以上十六歳未滿ノ辨別ナクシテ犯シタル幼者ハ滿二十歳マテ之ヲ懲治場ニ留

置スルヲ得ヘシ而シテ瘖啞者ハ其年齡ノ幾何ナルニ關セス其情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得ヘキ者トス

第九十五條

懲治人ハ監獄則ニ從ヒ十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者又滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ年齡ニシテ初テ入場スル者及ヒ瘖啞者等ヲ區別シ懲治中ハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ在リニ準シ毎日七時ニ過キサル時間ニ休憩時除農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシム又毎日三四時間讀書、習字、算術、度量、圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教ヘ學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月、

卒業ノ科目、學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否、氏名、年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ或ハ又其尊屬親ニ示スヲアル者ナリ其他懲治人ニハ一般ノ囚人ト異ナル所多シ監獄則チ參看スヘシ

第二節 一般ノ宥恕減輕

第九十六條

宥恕減輕ハ不論罪ノ如ク其所爲チ罪科トシ罰セサル者ニ非スシテ唯其罪ヲ宥恕シ減輕スルノミトス而シテ其酌量減輕ト異ナル所以ノ者ハ酌量減輕ハ法ニ於テ其場合ヲ定ムルヲナク一ニ法官ノ見ル所ニ任セテ減輕スルヲ得セシメ宥恕減輕ハ法ニ於テ其場合ヲ明示シ其區域外ニ出ルヲ許ササル者トス又其性質理由ノ如何ニ

拘ハラス刑法第八十條第八十一條及ヒ第八十三條ニ記載スル者ヲ以テ一般トス蓋シ其罪科ノ性質種類ニ關セズ一般ニ及フヲ以テナリ

第九十七條

一般ノ宥恕ハ總テ犯人ノ身分ニ因ル者トス刑法第八十條ノ十二歳以上十六歳以下ノ幼者ニシテ其所爲ノ是非ヲ辨別シタル犯罪ハ其罪ヲ宥恕シテ二等ヲ減ス又同法第八十一條ニ據レハ十六歳ヨリ二十歳マテノ幼者ニ付テハ最早是非ヲ辨別セサルヲアル歟ノ疑ナシ然レモ二十歳以上ノ者ニ比スレハ尙ホ知力ノ不充ナル者アルニ因リ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減スルナリ此二箇ノ幼者ニ付テハ重罪輕罪違警罪ニ通シテ之ヲ適施ス可

キヤ將タ重罪輕罪ノミニ限ル可キヤ法文ハ此點ヲ明示
スルヲナキモ第八十三條ニ於テ特ニ違警罪ノ宥恕云々
ヲ規定スルヲ見レハ第八十條第八十一條ハ重罪輕罪ノ
ミニ限ルヲ明カナリトス違警罪ヲ犯シタル幼者ハ滿十
二歳以上十六歳未滿ノ者ヨレハ本刑ニ一等ヲ減スト雖
モ十六歳以上二十歳未滿ノ者ハ宥恕スルヲナシ

第三節 特別ノ不論罪

第九十八條

特別ノ不論罪ハ刑法第一編第四章第一節即チ總則中ニ
記載セサル不論罪ヲ指ス者ニシテ同法第三百十四條第
三百十五條第三百八十七條第三百九十八條ノ如キ是ナ
リ此等ノ不論罪ハ總テ一般ノ不論罪トハ全ク關係アラ

サル者トス

第四節 特別ノ宥恕減輕

第九十九條

特別ノ宥恕減輕ハ刑法第一編第四章第一節即チ總則
中ニ記載セス其第八十四條ニ於テ特別ノ宥恕減輕ト謂
フ者ニシテ同法第三百九條第三百十條第三百十一條第
三百十二條第三百十六條ノ如キ是ナリ

第五節 自首減輕

第百條

凡ソ犯罪ニハ自首減輕ス可キ者ト減輕セサル者トアリ
又自首減輕ス可キ犯罪中ニ於テ財產ニ對スル者ト財產
ニ對セサル者トニ因リ其處分ヲ異ニス又自首減輕ノ特

別ナルモノアリ乃チ刑法第八十八條ニ所謂本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ニシテ第二百二十六條第百九十二條第二百二十六條第三百五十六條ノ如キ是ナリ

第百一條

自首スト雖モ減輕ヲ爲サ、ルノ場合ハ謀殺故殺ニ係ル罪ナリ此係ルノ文字ハ夫ノ謀殺ヲ以テ論シ又ハ故殺ヲ以テ論スル犯罪ヲモ含有スル者トス此二種ヲ除クノ外ハ總テ減輕ヲ爲スナリ然レモ其犯罪ノ未ダ發覺セサル以前ト官ニ自首スルカ又ハ被害者ニ首服スルヲ要件トス故ニ其罪ノ發覺シタル後ニ在テハ假令自首ヲ爲スアルモ減輕ヲ得ル能ハス又發覺セサル以前ト雖モ官ニ自首スルカ又ハ被害者ニ自首スルニ非サレハ其效ナキ

者トス（刑法第八十五條）而シテ被害者ニ首服スルハ一般ノ

犯罪皆然ルニ非ヌ殊ニ財産ニ關スル犯罪ノミニ限ルヘシ蓋シ此ノ被害者ト稱スル者ハ其盜取シタル物件ノ所有權ヲ有スル者タルヲ必要トセス故ニ物件ノ受託者又ハ借用主等モ亦被害者ト稱スルキモノトス

第百二條

自首ヲ爲スハ唯其要件ヲ具備スレハ則チ足ル者トス故ニ自ラ官ニ行キ自ラ被害者ニ首服スルニ非スト雖モ自己ノ代人ヲシテ自首セシメタル者モ其效アリトス可シ蓋シ其代人ヲ任スルニハ通常民事訴訟ノ如キ法式ヲ踐履スルヲ要セサルモ其委任セシメノ明ニ知り得ヘキヲ要ス法文ノ自ノ字ヲ用ヒタルヲ見レハ必ス自身自ラ官

ニ出頭スルヲ要ス可キカ如キモ代人ハ即チ本人タル民法ノ原則ニ從ヒ效アリト爲サ、ル可カラス而シテ財産ニ對スル罪ヲ犯シ贓物ヲ返還セサル時ト其他一般ノ犯罪ニ付テハ自首スルニ因リ本刑ニ一等ヲ減スルモノトス

第三百三條

財産ニ對スル罪ヲ犯シ自首スル者モ未ダ發覺セサル前ニ在ルヲ要スルヲハ他一般ノ犯罪ト異ナルナシト雖モ若シ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ通例一等減ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減スル者トス又其贓物ノ全部ヲ還償ヒセサルモ半數以上ヲ還償シタル時ハ通例一等減ノ外仍ホ一等ヲ減スルモノトス此通例ノ一等減ト贓物

半數以上ヲ還償シ又ハ全部ヲ還償シタルカ爲メノ減等ハ共ニ自首減輕ナルヲ以テ本刑ヲ四分シテ通減ス可キモノトス(第百十一條第百十條ヲ參看ス可シ)

第六節 酌量減輕

第四百四條

酌量減輕ハ宥恕減輕又ハ自首減輕ノ如ク法律ニ於テ定ムルヲナク一ニ裁判官ノ見ル所ニ任セテ隨意ニ酌量減輕セシムル者トス其減等ハ重罪輕罪違警罪ヲ分タス本刑ニ一等若クハ二等ヲ減スルナリ苟モ法官ニ於テ所犯情狀原諒ス可キ者ト認ムルヲアレハ假令法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕スル時ト雖モ酌量減輕ヲ爲スルヲ得ヘシ(刑法第九十八條)

第二百五條

酌量減輕ノ理由トナル者ハ法文ハ明示スル能ハサル萬般ノ情狀ニ依ルト雖モ原諒ス可キ情狀ト原諒ス可カラザル情狀トハ嚴正ナル區別ヲ爲サル可カラス今其一端ヲ擧クレハ年齢、性質、智愚、貧富、身位、損害ノ多少、被害者ノ身位等、是ナリ

第五章 再犯加重

第百六條

再犯加重ハ初犯ノ裁判確定シタル後又罪ヲ犯ス時加重スルナリ刑法第九十四條ノ初犯ナル文字ハ再犯ヲ以テ論スル罪ヨリ直ニ相對スル前度ノ犯罪ヲ謂フ者ニシテ初ナル文字ニ拘泥シ生來未ダ嘗テ罪ヲ犯シタルヲナ

ク始メテ犯シタル罪ノミヲ指ス者ト解釋ス可カラス而シテ法ハ裁判確定ノ後ト明言スルカ故ニ確定以前ノ犯罪ハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス又裁判確定後ニ犯スト雖モ刑法第四百十三條ノ逃走罪及ヒ第五百十四條第百五十五條ノ罪ハ例外ナルヲ以テ再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯トスルヲナシ又法律ハ重罪、輕罪、違警罪、ト記スルカ故ニ新律綱領、改定律例ノ行ハレシ當時ノ犯罪ハ刑法ニ於テ初犯ト見ルヲ得ス何トナレハ舊法ニ於テハ重罪、輕罪等ノ刑名アラサレハナリ(明治十五年七月十五日) 裁判ノ判決又舊法ノ行ハレシ當時ニ在テ犯シタル特別法ニ係ル犯罪モ亦同シトス但法律規則ヲ犯シタル者ハ刑法實施以後ト雖モ仍ホ再犯加重ノ例ヲ用ヒサルナリ

(明治十四年第五條) 然レモ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ因テ舊法ノ輕キニ從ヒ明治十四年第八十一號公布ニ依リ處斷シタル者ハ之ヲ初犯トシテ再犯加重ノ例ヲ用フルモノトス

第七條

先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ再ヒ重罪ヲ犯スノミナラス輕罪ヲ犯スト雖モ尙ホ加重ヲ爲スナリ先ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ再ヒ重罪ヲ犯シタル時ニ非サレハ加重スルヲナシ先ニ違警罪ニ刑ニ處セラレタル者一年內再ヒ同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ハ再犯トシテ加重ニ其他ノ場合ニ於テハ再犯トスルヲナシ(刑法第九十一條第九十二條第九十三條)

第八條

已ニ執行ヲ受クル刑期中ニ在テ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ再犯ヲ以テ論シ刑ヲ宣告シタル時ハ初犯ノ刑ト再犯ノ刑トヲ論セス先ツ其定役ニ服ス可キ刑ヲ執行シ次ニ定役ニ服セサル者ヲ執行ス若シ初犯ト再犯トノ刑共ニ定役ニ服ス可キ者ナル時或ハ共ニ定役ニ服セサル者ナル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行シ其輕キ者ヲ後ニス若シ又罰金、科料ニ該ル違警罪ヲ犯シタル時ハ順序ニ拘ハラス各自ニ之ヲ徵收スル者トス(刑法第九十五條)

第九條

大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得サルナリ(刑法第九十七條) 然レモ特赦ニ因

テ免罪ヲ得タル者又ハ自首セシニ因リ全免ヲ得タル者
或ハ刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ再犯ヲ以テ論ス可キ者
トス又刑法第八十條ノ二項及ヒ第八十一條ノ宥恕ヲ受
ケタル者モ亦再犯ヲ以テ論ス可キ者トス又陸軍裁判所
海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ常律ヲ以テ論ス
可キ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷
シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルナリ
(刑法第九十六條)

第一百十條

法律ノ再犯ナリトシテ加重ヲ爲スハ再度ノ犯罪以下ヲ
處斷スルノ通法ナリ故ニ再犯以下數十犯ニ至ル者ト雖
モ亦唯一等ヲ加重スルノミトス又彼ノ重罪ノ刑ニ該ル

罪ヲ犯シタル者ト雖モ宥恕自首若クハ酌量等ノ減輕ニ
因リ輕罪ノ刑ニ處セラレタル時ハ再犯ノ際輕罪ニ處セ
ラレタル者ヲ以テ論スルナリ輕罪ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ
犯シテ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者モ亦之ニ准ス何ト
ナレハ刑法ノ文面ハ處セラレタル者トアレハナリ

第六章 加減順序

第一百十一條

犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ加重減輕ス可キ時
ハ第一ニ再犯ノ加重ヲ爲シ第二ニ宥恕減輕ヲ爲シ第三
ニ自首減輕ヲ爲シ第四ニ酌量減輕ヲ爲ス者トス然シテ
從犯及未遂犯其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ
其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲スナリ故ニ未遂犯、從犯

其他各本條ニ記載スル加重減輕ヲ爲シタル後之ヲ四分
 シ其一ヲ再犯ノ爲メ加重シ(即チ本刑)更ニ宥恕減輕ス可
 キ時ハ本刑ノ四分ノ一ヲ減スル者ニシテ乃ハ再犯ノ
 加重ナキト同シキ刑トナル可シ此ニ本刑ト稱スル者ハ
 法文ニ明記シタル刑期ヲ謂フニ非スシテ或ハ加[○]へ或ハ
 減[○]シテ現ニ犯人ヲ處セントスル刑ヲ謂フ例ヘハ二人以
 上兇器ヲ携帯シテ強盜ヲ爲サントシテ遂ケサリシ者ノ從
 犯ノ如キ其正犯者ハ刑法第三百七十八條ニ依リ輕懲役
 ニ處ス可キニ其二人以上且兇器ヲ携帯シタルカ故ニ第
 三百七十九條ニ依リ一個毎ニ一等即チ二等ヲ加ヘテ有
 期徒刑ニ處ス可キ者トス然ルニ其所爲ヲ遂ケサリシ故
 ニ第三百十二條ニ依リ一等ヲ減シ重懲役ニ處ス可キ者ト

ス而シテ重犯ハ更ニ一等ヲ減シ輕懲役ニ處ス可キ者ト
 ス此輕懲役ハ即チ第九十九條ニ所謂加減シタル者ニシ
 テ本刑ナリ故ニ輕罪刑ノ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ
 處ストアルカ如キモ亦是ヨリ加減ヲ爲シタル後始メテ
 本刑ト爲ル者トス

第三百十二條

各種ノ加減法ハ輕罪ノ刑ト重罪ノ刑トニ因リ亦自ラ差
 異アリトス重罪ノ刑ハ一等毎ニ其刑名ヲ異ニス可キ故
 加減ノ際ニ於テ毫モ困難アルヲ見スト雖モ輕罪ノ刑ニ
 至テハ數個ノ減等ヲ各別ニスルト通減スルトニ因リ刑
 期ニ大ナル差異アル者トス故ニ此ニ其方法ヲ錄示セシ
 トス各本條ニ記載スル特別ノ加減ハ大抵未遂犯ノ減輕

ニ先タチ未遂犯ノ減等ハ大抵從犯ノ減等ニ先タチ其減等ノ方法ハ第一ニ各本條記載ノ加減ヲ爲シ之ヲ四分シ其一分ヲ以テ一等ト爲シ第二ニ未遂犯ノ減等ヲ爲シ更ニ又之ヲ四分シ其一分ヲ一等トナシ第三ニ從犯ノ減等ヲ爲シ之ヲ本刑トス而シテ若シ再犯者ナレハ其本刑ヲ四分シ其一分ヲ加重ス可シ其宥恕減輕ス可キ時ハ本刑ノ四分ノ一ヲ尺度ト爲シ減等ス可シ若シ宥恕減輕ノ外自首減輕酌量減輕等ヲ爲ス可キ時ハ最初ノ本刑ヲ四分シタル一分ヲ以テ尺度ト爲シ一時ニ通減ス可キ者トス

第七章 數罪俱發

第一百十三條

一人ニシテ數個ノ犯罪アレハ其中ノ重キ者ニ從テ處斷

スト雖モ重罪、輕罪、違警罪皆其法ヲ異ニス重罪ノ刑ハ刑期ニ長短アレハ其長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期相等シキ時ハ定役ノ有無ニ因リ定役アル者ヲ以テ重シトス若シ刑期相等シク且共ニ定役ナキ時ハ刑法第百條ニ「重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス」トアルニ因リ一ハ某刑ニ處斷スト謂フヲ以テ是レリトス輕罪ノ刑ハ禁錮ト罰金ト禁錮ノ刑期長キ者ト短キ者罰金ノ金額多キ者ト寡キ者又禁錮ノ定役アルト定役ナキト又附加刑アルト附加刑ナキトヲ區別スルヲナク裁判官ニ於テ其所犯情狀最モ重シト認メタル者ニ從ヒ處斷スル者トス違警罪ノ刑ハ若シ其重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フト雖

モ違警罪ノミ二個以上俱ニ發シタル時ハ各々其刑ヲ科スルモノトス(刑法第百條)

第百十四條

數罪ノ内一罪若シハ二罪前ニ發シ其判決アリテ已ニ上訴期限ノ經過シタル後又餘罪ノ發シタル時ハ其已ニ判決ヲ經タル罪ト比較シ若シ輕ク或ハ等シキ時ハ之ヲ論スルヲナシ若シ前發ノ罪ヨリ重キ時ハ更ニ之ヲ論ス然レモ前發ノ刑ヲ後發ノ刑ニ通算シ已ニ經過シタル日數ハ之ヲ扣除ス可シ若シ前發ノ刑罰金又ハ科料ニ該リ且已ニ納完シタル後ナレハ一日ヲ一圓ニ折算シ之ヲ後發ノ刑期中ヨリ扣除ス可シ又前發ノ刑期中已ニ假出獄ヲ許サレ其殘期中後發ノ罪ニ因リ更ニ重キ刑ニ處ス可キ

時ハ假出獄中ノ日數モ後發ノ刑ニ通算ス可キ者トス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セザリシ罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル時ハ再犯ノ罪ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算スルヲナシ

第百十五條

數個ノ犯罪俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從ヒ其輕キ者ハ消滅スト雖モ其輕キ者ノ中ニ附加刑ノ沒收ス可キ物アル時ハ主刑ト共ニ消滅スルヲナシ故ニ主刑ニ拘ハラズ沒收ス可シ又刑法第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條ノ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償モ亦主刑ト共ニ消滅スルヲナキモノトス

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百十六條

數人共ニ罪ヲ犯スト雖モ亦自カラ分テ二個ト爲サ、ル可カラス即チ正犯ト從犯トノ區別是ナリ刑法第四百條ニ曰ク「二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス」ト今法文ニ依レハ現ニ行フ者ヲ指シテ正犯ト定メタリ然レヒ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ其所爲現ニ行フニ非スト雖ヒ亦之ヲ正犯トス（刑法第百六條）蓋シ其根原ハ決定ヲ爲サシムルヲ以テナリ單ニ其意ヲ發セシメタル如キハ未タ以テ教唆ト爲スニ足ラストス故ニ其意ヲ發セシメ且心ヲ決セシメタル時ニシテ始メテ教唆者トナスナリ而シテ其手段ハ如何ナル

方法ヲ以テスルモ固ヨリ問フテ要セス唯教唆ニ因テ其所爲ニ着手セシテ以テ足ルモノトス

第一百十七條

前條ニ記スル所ノ教唆者ハ其教唆セラレシ者ノ現ニ行ヒタル所爲ニ因リ教唆ノ罪モ亦差異ヲ生スル者トス乃チ犯人其教唆セラレシ罪ヨリ重キ罪ヲ犯セシ時ハ教唆者ハ止テ其指定シタル罪即チ教唆セシ罪ニ從テ刑ヲ科セラレ可シ若シ犯人ノ所爲教唆セラレシ罪ヨリ輕キ時ハ教唆者其犯人ノ現ニ行ヒタル罪ニ從テ刑ヲ料セラレ（刑法第百八條）又正犯ノ身分ニ因リ子トシテ其父母ヲ毆別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者其加等ノ刑ヲ受ケサル者トス蓋此場合ニハ他ノ正犯從犯モ亦同シトス又犯人即

テ現ニ行ヒタル者ノ員數多キニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ハ其多數中ニ算入セラレサルナリ若シ教唆者ノ外尙ホ多數ノ犯人アリテ加重ス可キ時ハ教唆者ノ知ルト否トテ區別スルヲ要ス若シ多數ノ犯人ヲ數唆シタル時ハ其加重ス可キハ當然ノ事ナルヲ以テ教唆者モ亦其加重ノ刑ヲ受ケサル可カラス若シ一人ヲ教唆セシニ其教唆セラレシ者他人ト共ニ犯セシ時ハ教唆者其加重ノ刑ヲ免ル可シ何トナレハ加重ノ情狀ヲ作為セシハ教唆セラシ者ノ隨意ニシテ教唆者ニ加重ノ情狀ヲ作為セシ責アルノ理ナケレハナリ

第百十八條

正犯中ノ一人又ハ數人ノ所爲ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可

キ時他ノ正犯教唆者其事ヲ豫知セス又共ニ其所業ヲ爲サ、ル時ハ加重ノ刑ヲ科ス可カラス又正犯中ノ一人又ハ數人刑法第九十一條或ハ第九十二條ニ依リ再犯トシテ加重セラレ、コトアルモ其加重ハ他ノ正犯若クハ教唆者ニ及ハサル者トス又正犯中ノ一人又ハ數人刑法第八十條第二項或ハ第八十一條ノ者ニシテ宥恕減輕セラレ、ル、トアルモ他ノ正犯若クハ教唆者ハ減等セラレ、トナル可シ何トナレハ再犯加重ト宥恕減輕トハ共ニ犯人ノ一身ニ止マリ現ニ犯ス所ノ罪ニ關係ナキヲ以テナリ

第二節 從犯

第百十九條

從犯トハ重罪輕罪ヲ犯ス者タルヲ知テ之ニ器具ヲ給
 與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助
 シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ニシテ正犯ノ刑ニ一等ヲ
 減スルナリ若シ正犯ノ現ニ行ヒタル罪從犯ノ知ル所ヨ
 リ重キ時ハ從犯自ラ知ル所ノ罪ニ從ヒ一等ヲ減ス若シ
 之ニ反シ從犯ノ知ル所ノ罪ヨリ輕キ時ハ其輕キニ從テ
 一等ヲ減スル者トス又身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從
 犯トナリシ時ハ正犯ノ所爲ニ因テ其權衡ヲ取リ以テ其
 重キニ從ヒ一等ヲ減スル者トス故ニ子孫タル身分ヲ以
 テ我カ祖父母父母ヲ殺ス者ノ從犯トナリシ時ノ如キ(其
 從犯者)若シ正犯ナル時ハ當然死刑ニ處セラル可キモノ
 ナルヲ以テ正犯ノ罪如何ニ拘ハラス其從犯者ハ死刑ノ

第九章 未遂犯罪

第二百二十條

重キニ從テ一等ヲ減スルナリ又正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ
 減免ス可キ場合及刑法第八十條ノ二項ト雖モ從犯者ハ刑
 ハ之ニ比準シテ減免ヲ得ルヲナシ又從犯者ノ一人又ハ
 數人ノ身分ニ因リ其刑ヲ減免ス可キ場合モ亦同シトス
 其正犯者ノ身分ニ因リ刑ヲ加重セラレ、時ハ從犯者其
 加重ヲ受クルヲナシ

刑法第百十一條以下ニ記載スル所ノ未遂犯罪トハ罪ヲ
 犯スノ決心ヨリ以下ヲ指ス者トス決心ヨリ以上ノ思考
 意圖ノ如キハ内心ハ所爲ナルヲ以テ人間ノ能ク察知シ
 得ヘキ者ニ非ス故ニ之ヲ罰スルヲナシ然レモ決心ハ時

トシテ言語ニ因リ又ハ書面ニ因リ外面ニ表發スルヲア
リ故ニ其豫謀又ハ豫備ノミニシテ仮令未タ其事ヲ行フ
ニ至ラサルモ社會ハ危難多キヨリ刑法第百二十五條第
百二十六條第百三十三條ノ如キ場合ニ於テハ刑ヲ科ス
ルコアリトス（刑法第百
十一條第百

第百二十一條

己ニ犯罪ニ着手スルニ於テハ其目的ヲ遂クルマテノ範
圍中至當ノ刑ヲ科ス可キ者トス而シテ其己ニ事ヲ行フ
モ犯人意外ノ障礙ニ遇ヒ若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサ
ル時ハ己ニ遂ケタル者ノ刑ニ比シ一等又ハ二等ヲ減ス
ル者トス（刑法第百
十二條第百若シ其所爲アリト雖モ其所爲ノ性質
又ハ施用ノ方法ニ於テ害ヲ生スルノ理ナキ時ハ是則チ

不能犯ニシテ未遂犯中ニ入ラサル者トス何トトレハ此
ノ如キ者ハ内心上ノ犯罪人ナリト雖モ未タ法律上ノ罪
人トナラサレハナリ人ヲ滅スノ意アリテ發炮セシニ其
銃ニハ彈藥ヲ裝置セサリシ時木石ヲ誤認シ人ナリト思
ヒ之ヲ彈射セシ時毒藥ナリト信シテ人ニ飲用セシメシ
ニ毒藥ニ非サリシ時他人ノ物ナリト思ヒ盜取セシニ自
己ノ所有物ナリシ時或ハ活人ト思ヒ之ヲ刺セシニ死屍
ナリシ時ノ如キハ共ニ犯罪ノ所爲タル一原素ヲ缺ク者
ニシテ即チ成ラサルハ犯罪ナリ

第百二十二條

犯人意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ果サ、ルハ其事ヲ行ヒ
終ラスシテ中止シタル者ナリ故ニ舛錯ニ比スレハ甚タ

相似タル所アリト雖モ畢竟彼ハ此ヨリ一層ヲ進ミタル者ナリ障礙ハ之ヲ行ハントシテ半途ニシテ之ヲ止メ未ダ其方法ヲ盡サハルハ地位ニ在リ舛錯ハ之ヲ行ハントシテ既已ニ其方法ヲ盡シタルモ其效ヲ生セザリシハ地位ニ在リ甲者ヲ殺サントスルノ際乙者ニ沮止セラレシ時人家ニ忍ヒ入り將ニ財ヲ盜マントスルノ際事主ニ覺逐セラレタル時ノ如キハ之ヲ障礙トス人ヲ銃殺セントシテ已ニ發射セシニ中ラサリシ時毒殺セント欲シ已ニ飲マシメタルニ其人ノ強健ナルカ爲メ死セザリシカ或ハ其人ノ消毒藥ヲ用ヒテ死ヲ免レタル時又ハ財物ヲ盜ミシニ事主ノ爲メ取還セラレシ時ノ如キハ之ヲ舛錯トス蓋シ其所爲ノ犯罪ノ爲メナルヤ將タ其他ノ目的ナリ

シヤチ區別スルハ裁判官ノ任ナリ

第二百二十三條

輕罪ノ未遂犯ハ第二百十條ヨリ第二百二十二條マテニ記スル所ノ如ク刑法第百十一條第百十二條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス又違警罪ハ如何ナル場合ト雖モ未遂犯ヲ罰スルヲアサラル者トス

第十章 親屬例

第二百二十四條

刑法中別ニ限定スル時ノ外親屬ト汎稱スル者ハ總テ全法第百十四條第百十五條ノ明記スル所ニ從フ可キ者トス蓋シ親屬中ノ者ニシテ刑法ノ掲記セサル所ノ者之アル可シト雖モ文字ノ解釋ヲ以テ類似ノ者ヲ牽強シテ附

加スルヲ得サルナリ

刑法實用卷之上終

明治十五年六月廿一日板權免許
同 十月 出版

定價七拾五錢

著述人

山形縣士族

大室

傳

東京芝區松本町
四十四番地寄留

出版人

東京府平民

安田

虎男

日本橋區元柳町
二番地



發兌

日本橋區橫山町二丁目
十六番地

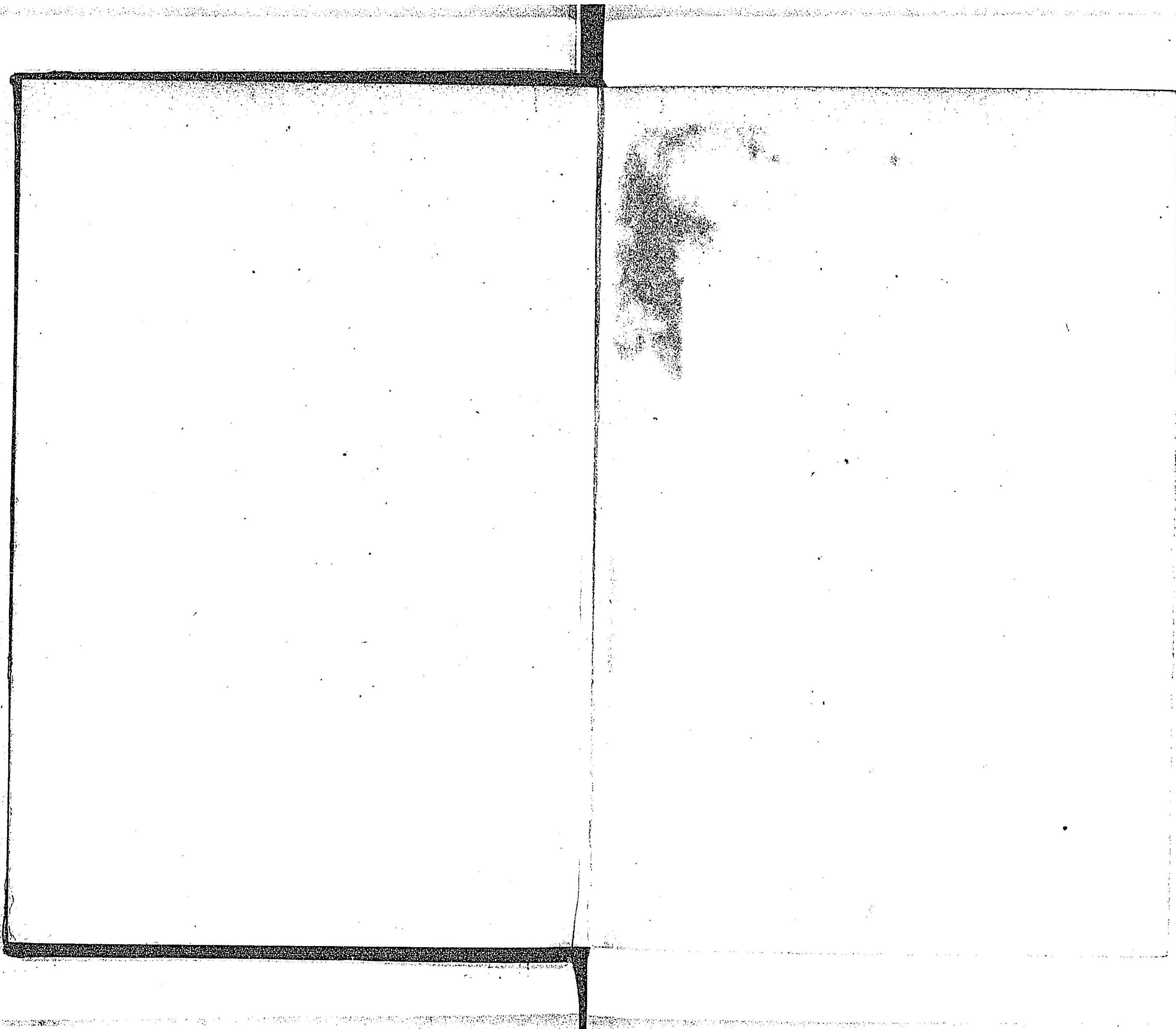
內田彌兵衛

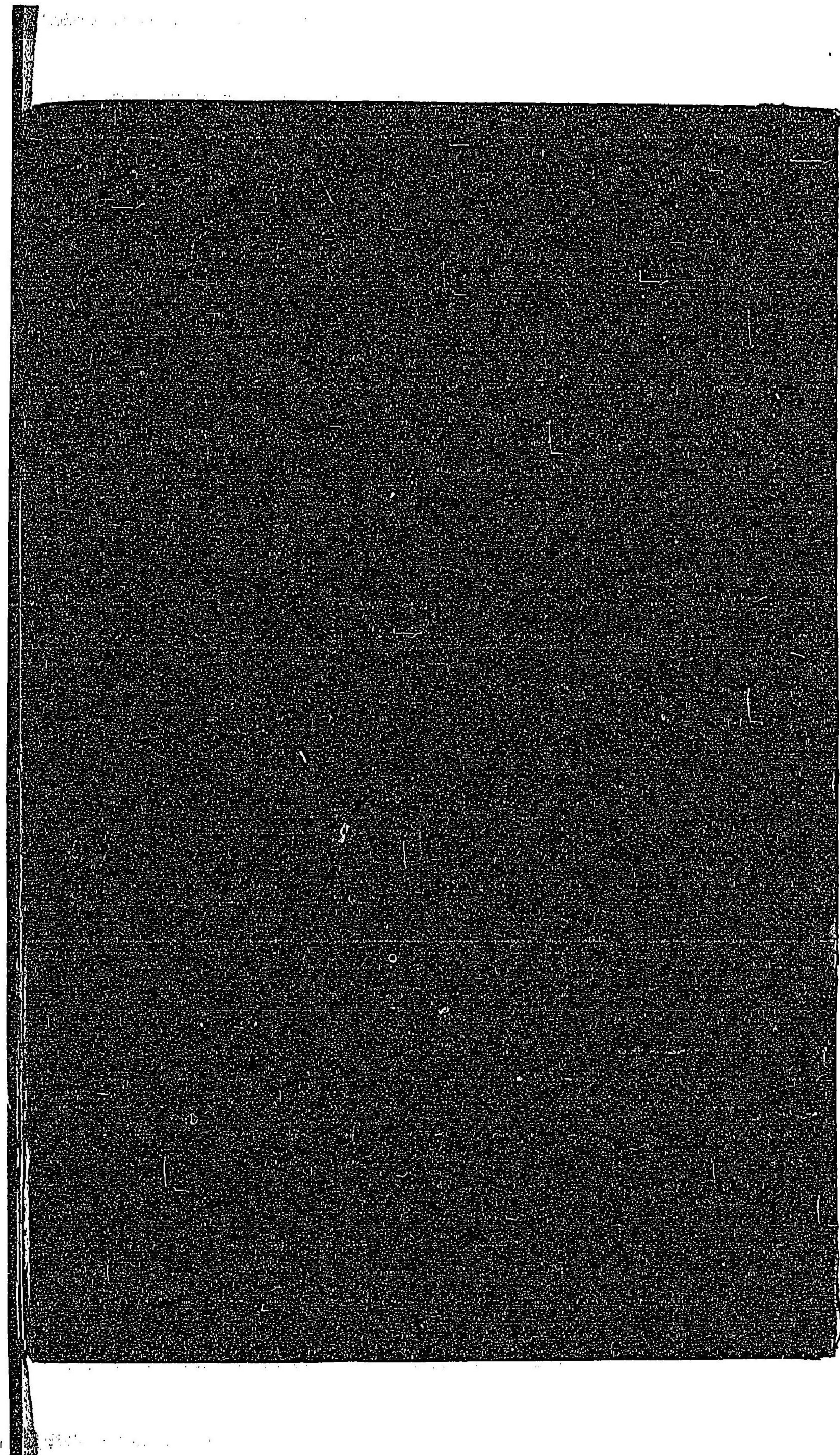
東 京 書 林

横山町一丁目 出雲寺萬次郎	横山町三丁目 高橋松之助	横山町三丁目 辻岡文助	馬喰町三丁目 森屋治兵衛	馬喰町三丁目 山口茂兵衛	日本橋通三丁目 須原屋茂兵衛	日本橋通三丁目 山城屋佐兵衛	同三丁目 小林新兵衛
------------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-------------------	-------------------	---------------

東 京 書 林

通三丁目 丸屋善七	通油町 藤岡屋慶次郎	本町三丁目 中外堂梅次郎	芝三嶋町 和泉屋市兵衛	銀坐三丁目 和泉屋北郎	池之端仲町 蓮沼善兵衛	日本區富澤町 片山金三郎	淺草芽町 須原屋伊八
--------------	---------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	---------------





館書圖京東	
函六四	門新
架五	部一一
號	類

035733-000-0

特16-434

刑法実用

大室 伝/著

M15

BBP-0308



特

